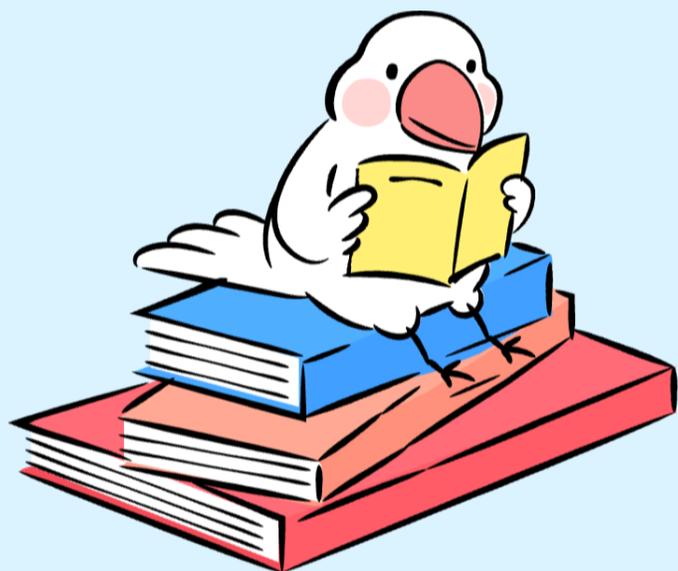
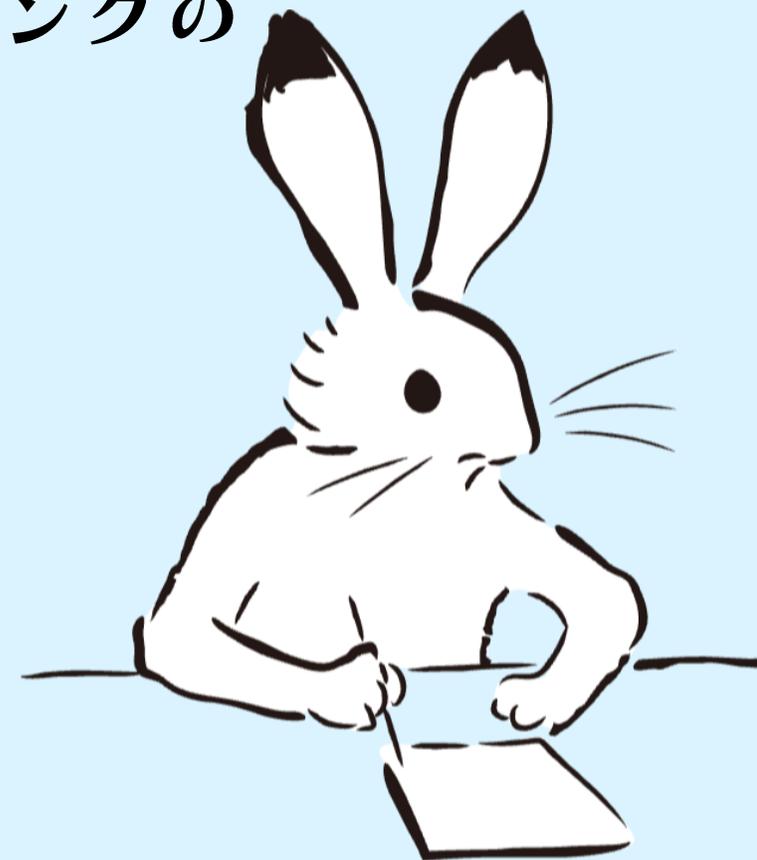


# 教師も生徒も《書くこと》をおそれない 探究学習をめざして

—大阪府立東高等学校 レポート・ライティングの  
実践を例に—



大阪府立東高等学校 探究推進部  
教諭 石山 貴裕



# 提案内容



1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

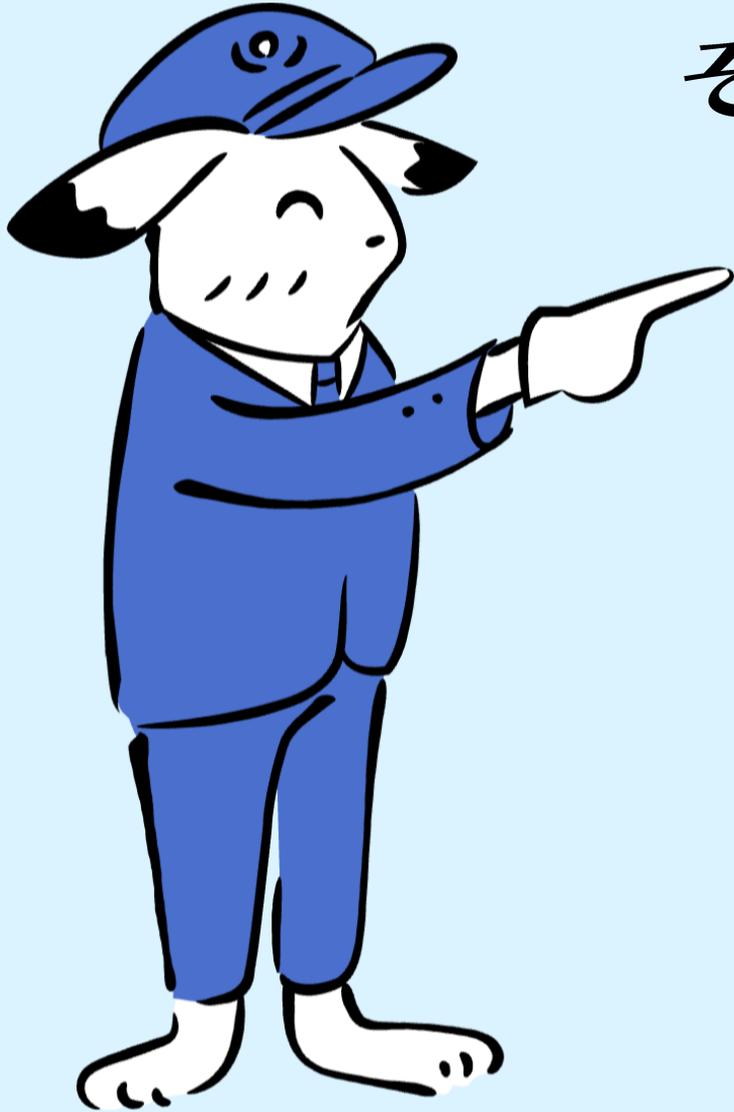
# 提案内容



1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

## そもそも「心理的安全性」とは？



定義(Rogers, Carl.1954)

もとは「**創造的行為**」に必要な2つの条件を提示したものの

### X. 心理的安全性

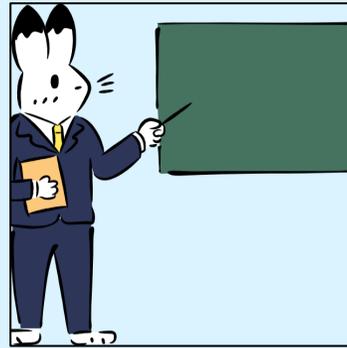
1. 個人を**無条件に**価値のある存在として受容する
2. 外部評価がない環境を用意する (**評価≠反応**)
3. **共感的に理解を示す**←究極の心理的安全性を提供

### Y. 心理的自由

象徴的表現の自由と**それに伴う責任**を認める

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

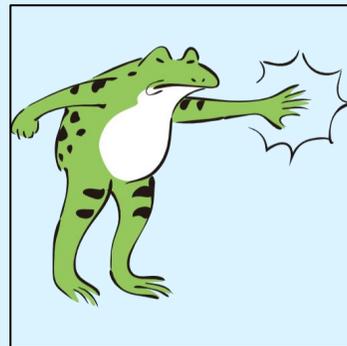
## 探究学習で心理的安全性が求められる理由



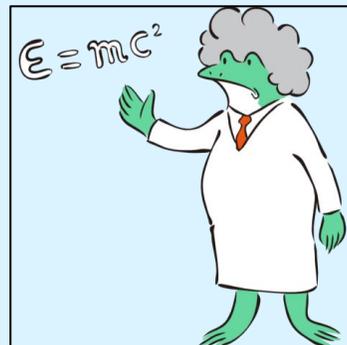
- 一から百まで全員に理解させなければ……
- ・教えるからには**他の先生と差がついてはいけない**
- ・理解していない生徒がいたら**何を言われるか……**
- ・授業の**タイムテーブルとマニュアル**がほしい……

### 【教師編】

1. **指導**の不安
2. **評価**の不安
3. **比較**の不安

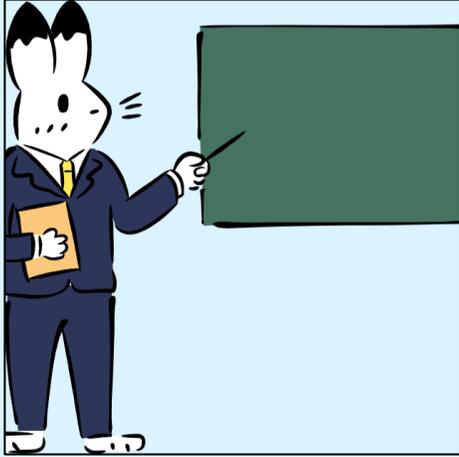


- 何も進んでいない生徒が気になってしまう
- ・何もせずに寝ている生徒や、別のことをしている生徒がいたらどうしても叱ってしまう
- ・困っている生徒にどうアドバイスすればいいか……



- 自分にそもそもそんな専門性がないのに……
- ・自分の教科のことじゃないので教えられない
- ・自分も必死になって勉強する時間なんて取れない
- ・生徒の**成果物を評価する自信**がそもそもない

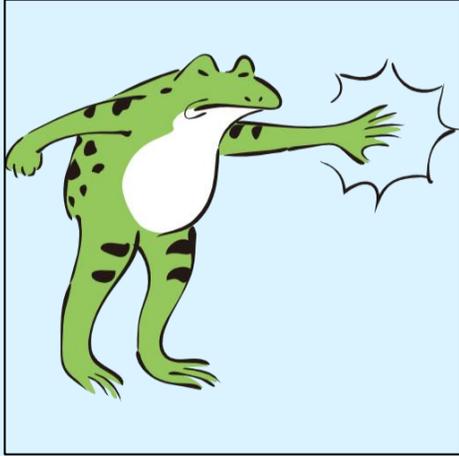
# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か



一から百まで全員に理解させなければ……

- ・教えるからには他の先生と差がついてはいけない  
→全く違うことを教えるのはNGですが、**教える人で  
多少の差が出る**のは探究ではむしろよくあること！
- ・理解していない生徒がいたら何を言われるか……  
→そのような生徒を打ち合わせの際に共有することで  
**担当者全員がその生徒を見守っていくことを意識！**  
※探究は全員でするもの！
- ・授業のタイムテーブルとマニュアルがほしい……  
→そういうものがあるのはもちろんOKだけれども、  
かえってその**マニュアルに縛られる可能性**もある！

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か



## 何も進んでいない生徒が気になってしまう

・何もせずに寝ている生徒や、別のことをしている生徒がいたらどうしても叱ってしまう

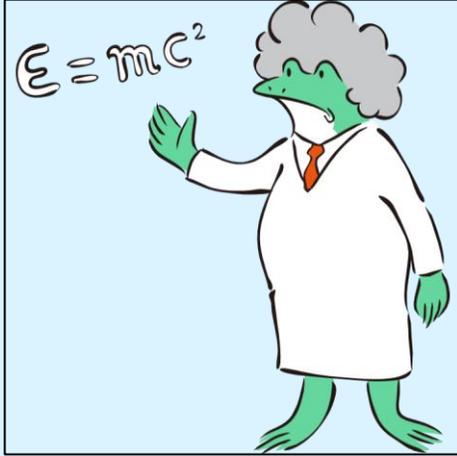
→ **探究に必要なものは「対話」という視座に立って指導**  
その生徒の**背景にあるものを具体的に**想定しつつ話す  
その子にとって「**必要な回り道**」かどうかを考慮する  
ひとりで指導するのではなく、やはり**情報を共有する**

※不適切行為があった場合は毅然と対応する

・困っている生徒にどうアドバイスすればいいか……

→ 「**一緒に困ろう!**」をスローガンにして悩んでみる!  
アドバイス「**してあげる**」という感覚を**捨てる!**  
教員は**二重の意味での「ガードレール」役に徹する!**

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か



自分にそもそもそんな専門性がないのに……

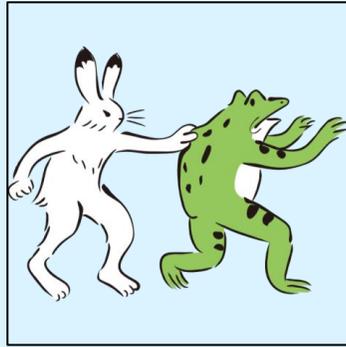
- ・自分の教科のことじゃないから教えられない  
→**探究は「教える」科目ではない**ことを強く意識する  
技術は**全教員で可能な限りシェア**する（探究の弱点）

※この時間がなかなか取れない！

- ・自分も必死になって勉強する時間なんて取れない  
→**生徒と一緒に**その時間で学べることを学びませんか  
**打ち合わせ**のときに、不安なことは不安と宣言する
- ・生徒の成果物を評価する自信がそもそもない  
→**評価こそできるだけ機械的にできる制度**にしておく  
それでも良いものは見れば・聞けば・読めばわかる

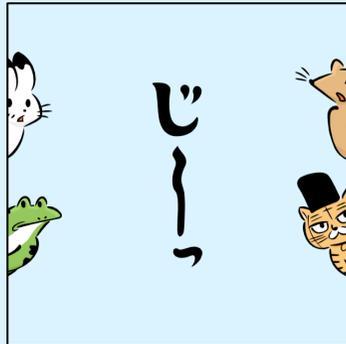
# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

## 探究学習で心理的安全性が求められる理由



こんなことをしたら怒られるのではないか？

- ・学校の授業だから、どこまで許されるかわからない
- ・学術的でないから、きっとこれは認められない
- ・何も思いつかなくて、このままだと怒られてしまう



友だちからの目が気になってしまう……👁️👁️

- ・自分は本当はこんなことがしたいけれども、友だちからもたれているイメージが崩れてしまう
- ・他のクラスメイトと内容をどうしても比べてしまう



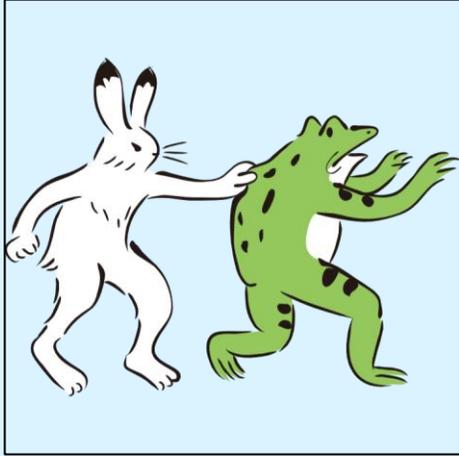
自分にそんなレベルの高いことができるの？

- ・先生が求めてくるレベルのことなんてできない
- ・そもそも何をしたいか分からない
- ・自分には長いレポートを書く力なんてない

### 【生徒編】

1. 対象の範囲
2. 評価される
3. 比較される

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か



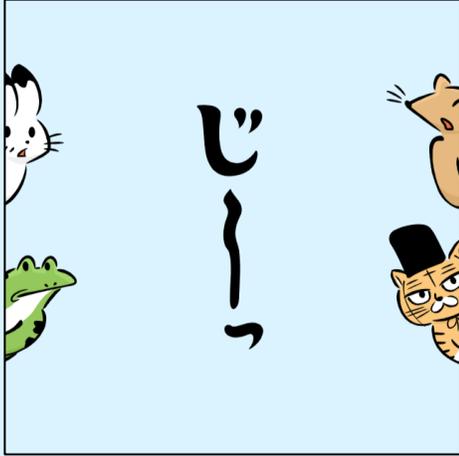
こんなことをしたら怒られるのではないか？

- ・ 学校の授業だから、どこまで許されるかわからない  
→ 探究に向いていない対象・扱いに気をつけるべき  
対象はあるけれども、**許されないものは原則ない**

※人権を侵害するものは×

- ・ 学術的でないから、きっとこれは認められない  
→ 何が学術的かを決めるのは、テーマそのものではなく、**その対象自体をどこまで掘り下げられるか**
- ・ 何も思いつかなくて、このままだと怒られてしまう  
→ 思いつくことが大事なのではなく、**日常のなかの自分の気になることや不思議に思うことが開始点**

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

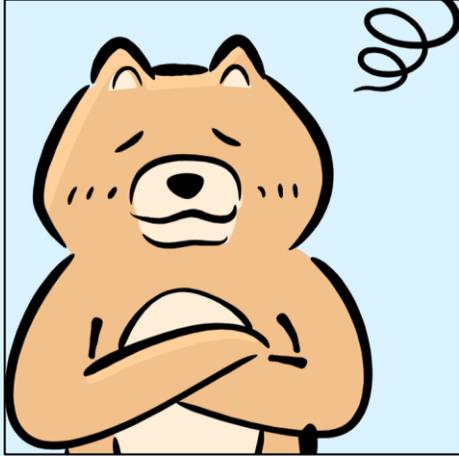


友だちからの目が気になってしまう……👁️👁️

- ・自分は本当はこんなことがしたいけれども、友だちからもたれているイメージが崩れてしまう
  - 自分をさらけ出すことはとても怖いことけれども  
**自分の様々な側面を自分で解放して、認めてあげる**  
こともまた、自分の可能性を広げてくれる糧になる
- ・他のクラスメイトと内容をどうしても比べてしまう
  - それぞれの興味や関心は、趣味と同じで比べるものではなく、**それぞれに認め合うもの**だから、自分も胸を張り自分の探究を自分のペースで深めればいい

※期限が決まっている場合は  
自分のペースを締切から  
逆算して考えてみよう

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か



自分にそんなレベルの高いことができるの？

- ・先生が求めてくるレベルのことなんてできない  
→いきなり100%求めていることができたとしたら、  
もうあなたは**大学レベルのこと**ができるということ
- ・そもそも何をしたいかわからない  
→**失敗を恐れたり、自分の興味をさらけ出す恐怖**から  
逃げようとしたりして、そう言っている可能性は？  
※**言い方には気をつけて対話**
- ・自分には長いレポートを書く力なんてない  
→レポートの書き方をひとつずつ**一緒に覚えていけば**  
あなたにも必ず書く力があることが証明されます！

# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

## 改めて「**心理的安全性**」とは

定義(Rogers, Carl.1954)

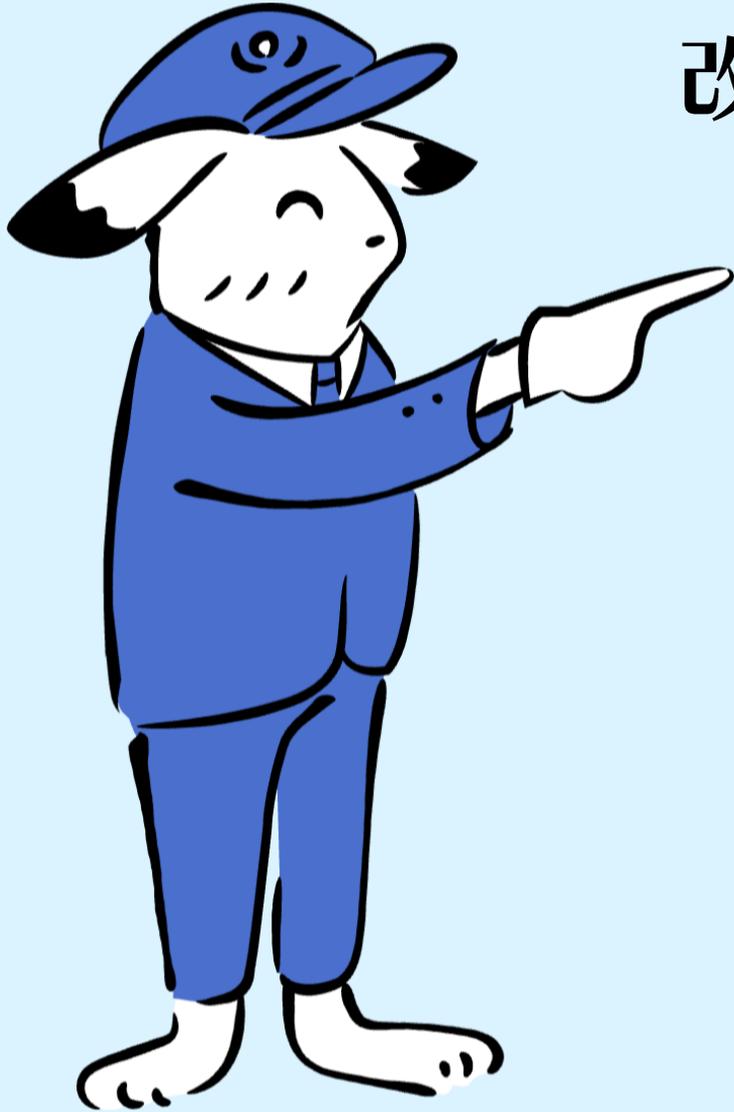
もとは「**創造的行為**」に必要な2つの条件を提示したものの

### X. 心理的安全性

1. 個人を**無条件に**価値のある存在として受容する
2. 外部評価がない環境を用意する (**評価≠反応**)
3. **共感的に理解を示す**←究極の心理的安全性を提供

### Y. 心理的自由

象徴的表現の自由と**それに伴う責任**を認める



# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

改めて「**心理的安全性**」とは

**教師側**の「心理的安全性」と「心理的自由」

1. 関わる教員を互いに無条件に信頼する
2. 評価しないで反応することを常に意識する
3. 互いの指導に対して共感的に理解を示す

→まずは**教員同士が「認め合う」場**をつくる

生徒の表現の自由とそれに伴う**責任**を認める

→やる・やらないの**自由は責任とともに**生徒にある



# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

改めて「**心理的安全性**」とは

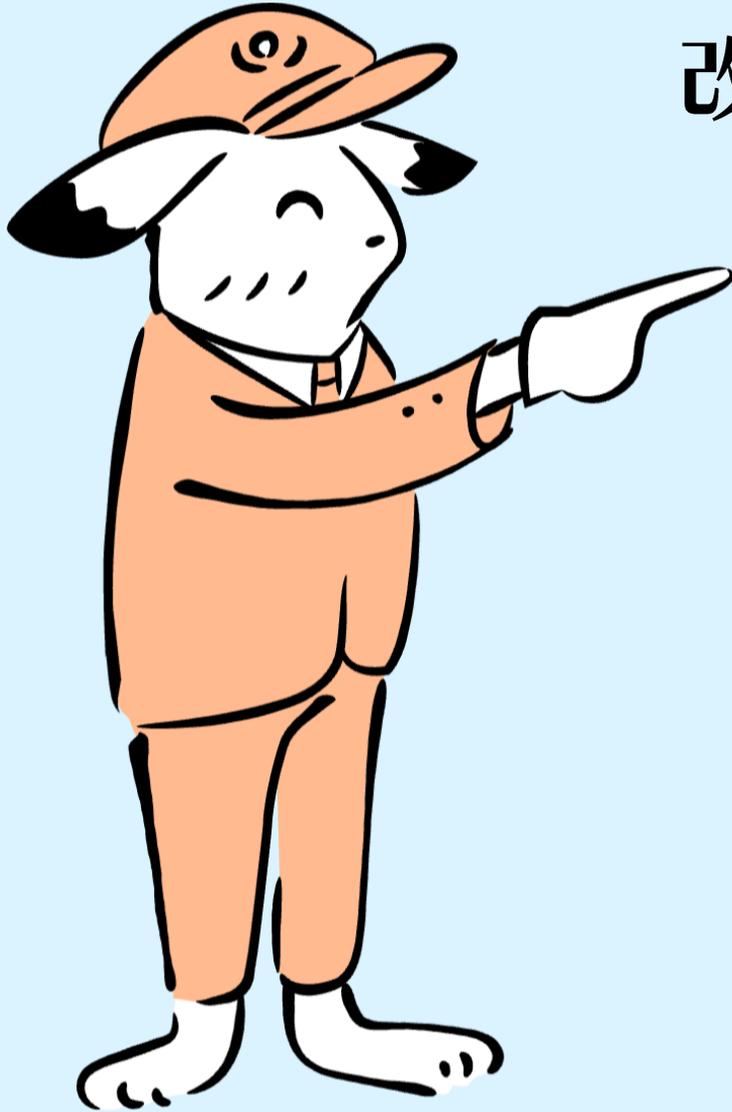
**生徒側**の「心理的安全性」と「心理的自由」

1. 自分の活動を**無条件に**価値のあるものとする
2. 探究活動をしているときは**評価を一切気にしない**
3. 他の生徒がしている活動にも**共感的に理解を示す**

→ **自分をまず認め、他者のことも認めよう**

自分の探究活動の自由と、**それに伴う責任**を認める

→ **安全のために責任を負うことの大切さ**を知る



# 1. 探究学習における心理的安全性がどれだけ大切か

## 何が心理的安全性を担保するのか



### 【教師側】

- ① 指導内容や生徒情報の定期共有
- ② 生徒の評価をいったん横に置く
- ③ 他の先生と違うスタンスでいい

### 【生徒側】

- ① どこまでも自分の興味に忠実に
- ② 人の目や評価を気にせず究める
- ③ 自分のものは人と違うと認める

# 提案内容



1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

「書くこと」は本当に難しいことなのです



「書くこと」の何が難しいか？

- ・そもそも授業で「書くこと」の指導が十分にされていない
- ・「どうやって書けばいいか」の教え方がそもそもわからない
- ・生徒からの書き方の質問に対してもうまく答えることができない
- ・書いたものの評価ができない

## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

逆に、生徒にとっても「書くこと」は難しい！

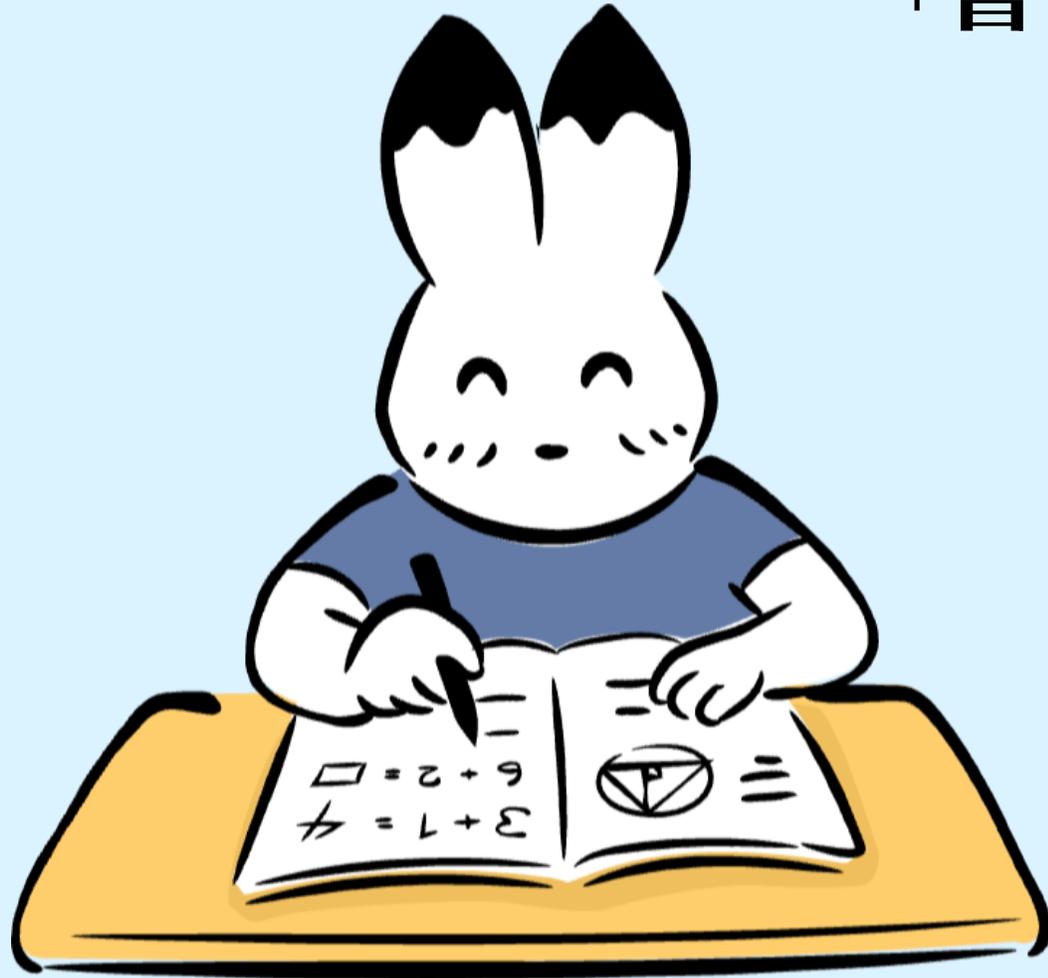


「書くこと」の何が難しいか？

- これまでに書いてきたものと探究で求められるものが違う
- どうやって書いたらいいかわからない、何を書くのか？
- 引用の仕方や意見を論述する順序などが全く想像つかない
- これで大丈夫なのか判らない

## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

### 「書く」ために必要な環境とは

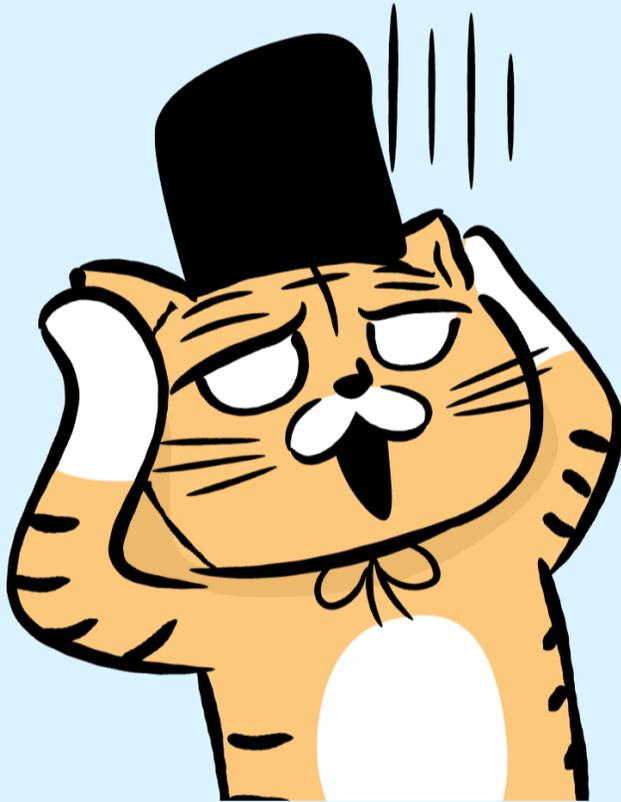


- ① 実際に「書く」までの練習期間
- ② 「書く」ことに慣れる授業実践
- ③ 引用の方法についての事前指導
- ④ 何をどう書くかの順序立て指導
- ⑤ 「書く」テンプレート等の作成
- ⑥ 十分に「調べて書く」時間設定
- ⑦ 自己チェック用のリストの作成
- ⑧ 評価のための簡素ループリック

## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

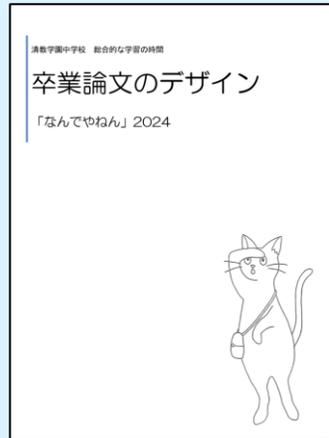
そもそもなぜ高校現場は  
こんなに困っているのか？

→ アカデミック・ライティングに関する書籍は数あれど、**高校生レベルの探究活動におけるライティングを具体的に述べた書籍**が本当にほとんど存在しない！



# 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

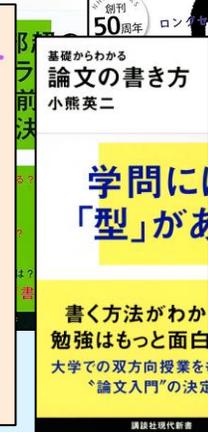
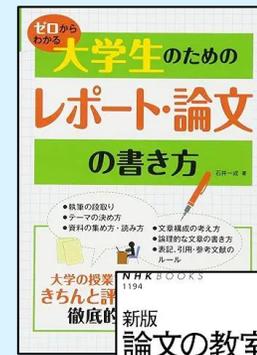
## 中学生レベル



## 高校生レベル

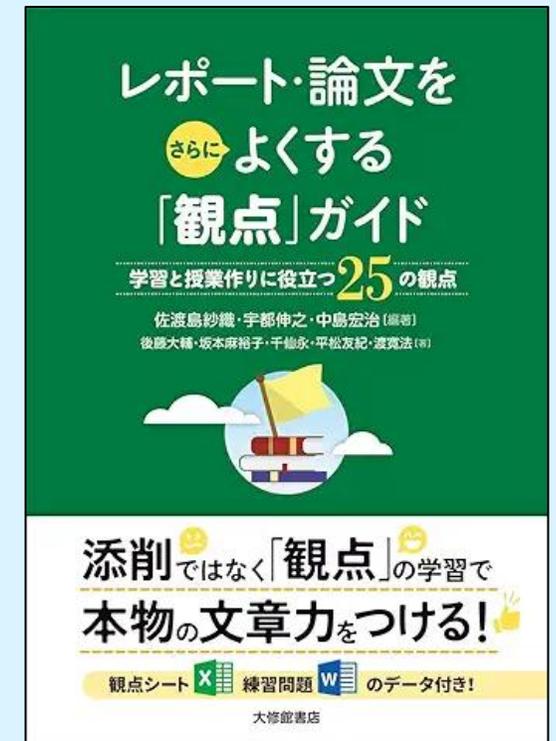
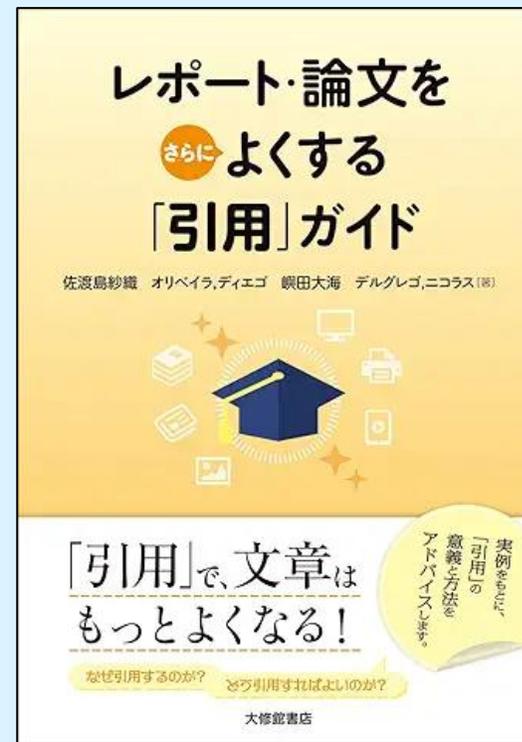
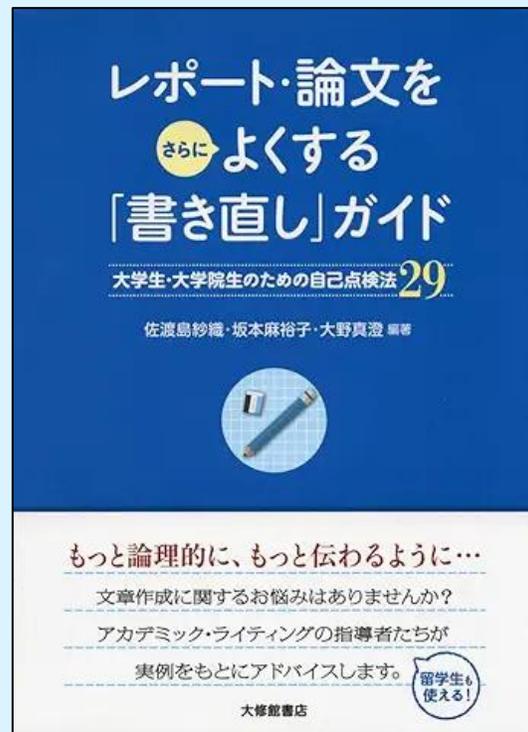


## 大学生レベル



## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

### レポート指導者用と呼べる書籍のあまりの少なさ……



## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

よく見るこの本、**本当によくできているけれども……**



- ・ **レポートへの言及がない**  
(実験レポートしかない)
- ・ **リサーチクエスション**という「強敵語」が出てくる
- ・ 非常に詳細に書かれているので、**参照がばらける**

## 2. 教師も生徒も《書くこと》をおそれない環境づくりのポイント

「よくある」高校が求める「レポートの書き方」の本は…

- ① 作文からレポートへとステップアップする必要性が述べられていて、
- ② 2,000～4,000字程度の高校生レベルのレポートの書き方をまとめた、
- ③ 引用の方法や研究倫理にも触れ、大学等でのライティングにつながる、
- ④ 文理を問わない学際的な考え方でレポートを書くことができるような、
- ⑤ 指導者にとっても指導方法や手順がはっきりと分かる、そういう本！

# 提案内容



1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

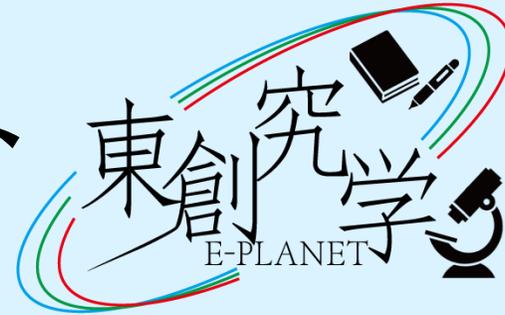
## 大阪府立東高等学校の概要と探究学習の内容

- ・ 1924年開校（創立102年目）
  - ・ 普通科5クラス、英語科1クラス、理数科2クラスの1学年8クラス320人編制
  - ・ いわゆる「二番手校」の位置にある進学校
- ★1年：全学科「総合的な探究の時間」1時間  
→ 「書くこと」の基礎は1年でみっちり指導
- ★2年：普通科・英語科「総合的な探究の時間」2時間  
理数科「理数探究」2時間



### 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## 東創究学(E-PLANET)プロジェクト



大阪府教育庁「学校経営推進費事業」

(3か年、500万円) R6年度採択

「探究×図書館×ICT」×「書くこと」

- ・2年間の探究の授業で書く指導を重点化
- ・成果物を持った状態でグループ探究へ
- ・2月の生徒研究活動発表会での発表
- ・図書館の改装と探究空間の創設
- ・ICT機器をフル活用した探究の指導計画



# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## ① 実際に「書く」までの練習期間

1年「総合的な探究の時間」全学科

・「論理コミュニケーション」

一般財団法人SFCフォーラム提供  
(生徒徴収金で実施、検定3回+16時間)

ルールに基づき、文章の設計図を用いて、意見・根拠・事例・構成を論理的にかつ具体的に述べ、自分が少数派の意見でも堂々と意見を表出することができるようになることを目指す。(引用講座もあり)



Keio University  
1852  
CALAMUS  
GILGADO  
FORTIOR

### 論理コミュニケーション

#### トータルロジックス特別版

The Logical Communication as Total Logics

(上巻)



論理的な文章の設計図

文部科学省全国高等学校教育改革研究協議会 発表特別号



慶應義塾大学  
SFC研究所  
プラットフォーム  
デザインラボラトリー

×

福岡県立  
東高等学校



これからの中学生・高校生は、論述を学ばないといけない。  
だから、地域を代表する公立高校の先生と  
2003年から論理コミュニケーションを研究する大学の先生が  
論述力習得のためのテキストを創りました。

**特別無償版** ※  
(学校及び自習利用)

※著者の同意において、学校の授業や出張及び、児童・生徒・学生の自習での利用に関して自由に印刷して利用可能です。  
学校等で有利に譲渡しては、発行元まで一報ください。  
※本特別号は慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボラトリーと福岡県立東高等学校のトータルロジックス授業の発展  
化に向けた両校が協賛した共同研究報告書です。

©慶應義塾大学SFC研究所プラットフォームデザインラボラトリー 2018

本書に全国の大学の先生から応援を頂きました

いば、社会のあらゆる場面で、自分の考えを論理的に構築して、人に分かるように表現できる人材が求められている。10余年の研究をもとに開発された、「論理コミュニケーション」を薦める推薦用テキスト。  
慶應義塾大学教授 西條二郎

普遍的な課題ともいえる論理的思考力を伸ばす方法は、明確な一つの答えがあるわけではない。しかし、効果的期待できるモデルを提示することはできる。スーパーサイエンスハイスクール事業は、国の先進的、試行的な取組をモデルを創出する場である。論理的思考力の育成に向け、東海高等学校で行っている「論理コミュニケーション」の取組は、理論に学習意欲の主体的な学びを創出し、モチベーションを向上させ、論理的思考力が昇華することを学習意欲も誘導できる具体的な効果的なモデルであると考える。  
東海大学教授(元国立教育政策研究所特別研究員) 後藤謙一

いばの高等教育で必須な学びである論理コミュニケーションを一部の限られた人ではなく、全ての人へ響けることを10余年の研究をもとに実現したテキストである。  
文部科学省大臣補佐官 東京大学・慶應義塾大学教授 鈴木真

論理的に主張する技術は、古代ギリシアに遡る。ある土地が自分の所産であることを法廷で主張するために、rhetoric(説得力を持って話し書くこと)が始まったという。西洋では一つの学問分野となり、高校や大学では、rhetorical persuasion, public speaking 等が授業で教えられている。それに対して日本の教育では、それらの授業に対応するものが不十分であったが、本書はまさにその役割を担うといえる。本書で分かりやすい記述に加え、具体例や事例に基づく論議等が多くあり、この一冊をマスターすれば論理的に日本語で文章が書ける力が身につく。そして、それは日本語を話すときに必要になってくる。  
三重大学教育学部英語科特任教授 藤原光秋

本書は、「論理コミュニケーション」、すなわち、「自ら考え、それを論理的に表現して相手に説得力を伝える力」を養うことを目的とし、そのために必要な思考形式や記述方法等について具体的な訓練の手法を提示したものである。今後、推薦資料によって求められる社会活動が高度化され、アイデアやテクノロジーを用いて新たな価値を生み出すことが人間の中心的役割となるならば、そこにおいて必ず人間に求められるのは、「自分の考えを表現し、その実現のために、それを人に理解させる能力」であるはずである。これらに對する素的な変化の中、時代を先導する人材の育成のためには、まさに本書のような実践の手引が必要となってこよう。  
弘前大学教育学部専任講師 神田科

情報に基づき、事例をひきながら話すこと。それができるとできないのでは、自分の考えを他人に伝えようとするときに、大きな差となって表れるはずだ。この本には、そんな「論理コミュニケーション」を行うために、高校生読者が身につけて欲しい「論理」が書かれている。  
早稲田大学情報システム学研究所 教授 吉江洋

©著者等の権利

# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## ① 実際に「書く」までの練習期間

1年「総合的な探究の時間」全学科

・「**プレ探究**」

学校オリジナルのプログラム

(9時間)

自分の気になる「**日常の謎**」をヒントに、**学術論文や書籍**を探し、その文章を読んだ上で**3学科の生徒を混合で80班**編制し、自分たちの読んだものをGoogleスライドにまとめ発表し、2年の探究につなげる。

作業済 ←下読みの進捗状況に応じて選択してください 提出時は「作業済」にしておきます

1年総合的な探究の時間「プレ探究V」[12/21(木)3限実施] 文献の下読み記録ノート

◆読む文献の書誌：APA方式 ←該当するものを選択 ※書誌の各記載方法は次の例を参照

APA方式：【書籍】 編著者名(出版年)、『本の正式な題』,出版社[, シリーズ名] [, 総ページ数].  
【論文】 著者名(出版年)、『論文名』.『誌名』【巻数】,月号, pp. 始め-終わり.

SIST 02：【書籍】 編著者名,本の正式な題,出版社,出版年[, \*総ページ数][, シリーズ名].  
(特定のページのみが引用はそのページを範囲 [a. 15]や[pp. 15-21]のように明記)  
【論文】 著者名,論文名,誌名,出版年,巻数,月号, pp. 始め-終わり.

※Googleスカラーで検索した文献の「書誌情報」の出力先 → 【\*】引用 を選択するとAPA書誌が出てきます



【論文】由田克士(2007)、『循環器疾患を予防するための栄養・食生活からのアプローチ』、『日本循環器病予防学会誌』[42巻] 1号, p14-p22. 始め-終わり.

文献の形式：研究論文 - PDF ←該当するものを選択

◆文献の下読みメモ (ここは読みながら自由に書いてください)

手書きのメモを取って、一定量の読書後に情報を整理しながら、簡条書きなどでまとめるのがおすすめ

DASH食に食塩の制限 → 一層の血圧低下  
食事パターンの質的な良否が健康状態に深く関わる  
循環器疾患の予防や管理には栄養・食生活改善が重要

食生活に関わる指導 → 対象者は具体的に改める点がわからない  
↓理由  
指導者が対象者に表面的な対応のみ、一方的な情報提供  
↓  
対象者が諦めてしまう → 結果が得られない

◆文献の概要 (メモをもとにして、文献の要点をまとめ、適切に文章化) ※単語だけで説明しないこと  
これを踏めば誰でもその文意の内容が分るようにつなぐのがポイント  
人に伝わる文章を書くために、「読む人を想定する(ここでは指のメンバー)」ことをしましょう  
字数の制限等はありませんが、400字程度をめやすとしてまとめてみましょう

肥満男性は、10年、20年前よりも増加しており、女性は、20年間で横ばいになっている(2004年の国民健康・栄養調査より)。

循環器疾患の予防や治療に関連した栄養・食生活からの研究やアプローチが活発化しており、米国で実施されたDASH食(低脂肪乳製品、野菜、果物の多い食事)によって血圧低下が認められた。また、DASH食に食塩の制限を追加することで一層の血圧低下が認められた。  
循環器疾患の予防や管理に及ぼす栄養・食生活改善の重要性を改めて認識させるものであり、適切な食習慣や栄養素摂取が健康の保持増進あるいは疾病の予防や治療にとって欠かすことのできない要素であることを科学的に裏付けた。

何らかの問題を持つ者が改善を試みてもその効果は短期間には現れ難いという特徴を持っていることを考慮する必要がある。このため、自覚症状が現れた後になって実質的に行動に移すケースが目立つ。  
多くの栄養・食生活に関わる支援・指導そのものの問題点としては、指導者が望ましい行動の結果だけを指摘するため、対象者は具体的に改める点を知らされないまま日常生活に戻らざるを得ない状況が推察される。指導者が対象者にとった表面的な対応や、一方的な情報提供の実施などが理由として挙げられる。このため、対象者が初期段階で行動変容を諦める、努力をやめてしまい、十分な結果が得られない。

個々の栄養素では、疾病そのものや明らかに問題のある食生活・栄養素摂取状況を根底から改善することはできない。  
さまざまな食品を組み合わせて摂取しなければ、生命の維持や健康の保持増進が成り立たない。

※1月10日(水)の総合探究の時間に、読んだ文献の概要を班のメンバーに紹介するワークを実施します。必ずそのときまでにこの記録ノートを完成させておきましょう。

作業済 ←下読みの進行状況に応じて選択してください 提出時は「作業済」にしておきます

### 1年総合的な探究の時間「プレ探究V」[12/21(木)3限実施] 文献の下読み記録ノート

◆読む文献の書誌：APA方式 ←該当するものを選択 ※書誌の各記載方法は次の例を参照

APA方式：【書籍】編著者名(出版年).『本の正式な題』.出版社[,シリーズ名][,総ページ数].  
【論文】著者名(出版年).「論文名」.『誌名』[巻数,]号数,pp.始め-終わり.

SIST 02：【書籍】編著者名,本の正式な題,出版社,出版年[,\*総ページ数][,シリーズ名].  
(\*特定のページごとの引用はそのページ範囲を[p.15]や[pp.15-21]のように明記)  
【論文】著者名,論文名,誌名,出版年,巻数,号数,p.始め-終わり.

※Googleスカラーで検索した文献の「書誌情報」の出し方→【”引用”】を選択するとAPA書誌が出てきます



【論文】由田克士(2007).「循環器疾患を予防するための栄養・食生活からのアプローチ」.『日本循環器病予防学会誌』[42巻] 1号, p14-p22. 始め-終わり.

文献の形式：研究論文 - PDF ←該当するものを選択

◆文献の下読みメモ（ここは読みながら自由に書いてください）

手書きのメモを取って、一定量の読書後に情報を整理しながら、箇条書きなどでまとめるのがおすすめ

DASH食に食塩の制限→一層の血圧低下  
食事パターンの質的な良否が健康状態に深く関わる  
循環器疾患の予防や管理には栄養・食生活改善が重要

食生活に関わる指導→対象者は具体的に改める点が見えない  
↓理由  
指導者が対象者に表面的な対応のみ、一方的な情報提供  
↓  
対象者が諦めてしまう→結果が得られない

◆文献の概要（メモをもとにして、文献の要点をまとめ、適切に文章化） ※単語だけで説明しないこと  
これを読めば誰でもその文献の内容がだいたい分かるように書くのがポイント  
人に伝わる文章を書くために、「読む人を想定する（ここでは班のメンバー）」ことをしましょう  
字数の制限はありませんが、400字程度をめやすとしてまとめてみましょう

肥満男性は、10年、20年前よりも増加しており、女性は、20年間で横ばいになっている(2004年の国民健康・栄養調査より)。

循環器疾患の予防や治療に関連した栄養・食生活面からの研究やアプローチが活発化しており、米国で実施されたDASH食(低脂肪乳製品、野菜、果物の多い食事)によって血圧低下が認められた。また、DASH食に食塩の制限を追加することで一層の血圧低下が認められた。  
循環器疾患の予防や管理に及ぼす栄養・食生活改善の重要性を改めて認識させるものであり、適切な食習慣や栄養素摂取が健康の保持増進あるいは疾病の予防や治療にとって欠かすことのできない要素であることを科学的に裏付けた。

何らかの問題を持つ者が改善を試みてもその効果は短期間には現れにくいという特徴を持っていることを考慮する必要がある。このため、自覚症状が現れた後になって実質的に行動に移すケースが目立つ。多くの栄養・食生活に関わる支援・指導そのものの問題点としては、指導者が望ましい行動の結果だけを指摘するため、対象者は具体的に改める点を見えないまま日常生活に戻らざるを得ない状況が推察される。指導者が対象者にとった表面的な対応や、一方的な情報提供の実施などが理由として挙げられる。このため、対象者が初期段階で行動変容を諦める、努力をやめてしまい、十分な結果が得られない。

個々の栄養素では、疾病そのものや明らかに問題のある食生活・栄養素摂取状況を根底から改善することはできない。  
さまざまな食品を組み合わせることで摂取しなければ、生命の維持や健康の保持増進が成り立たない。

※1月10日(水)の総合探究の時間に、読んだ文献の概要を班のメンバーに紹介するワークを実施します。  
必ずそのときまでにこの記録ノートを完成させておきましょう。

• GoogleドキュメントをClassroomで課題として配信

• この下読み記録をもとにグループ編成

• 読めなかった生徒は個別に呼び出してカウンセリングする

• あくまでもこれは調べ学習で構わない(書く練習の一環)

### 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

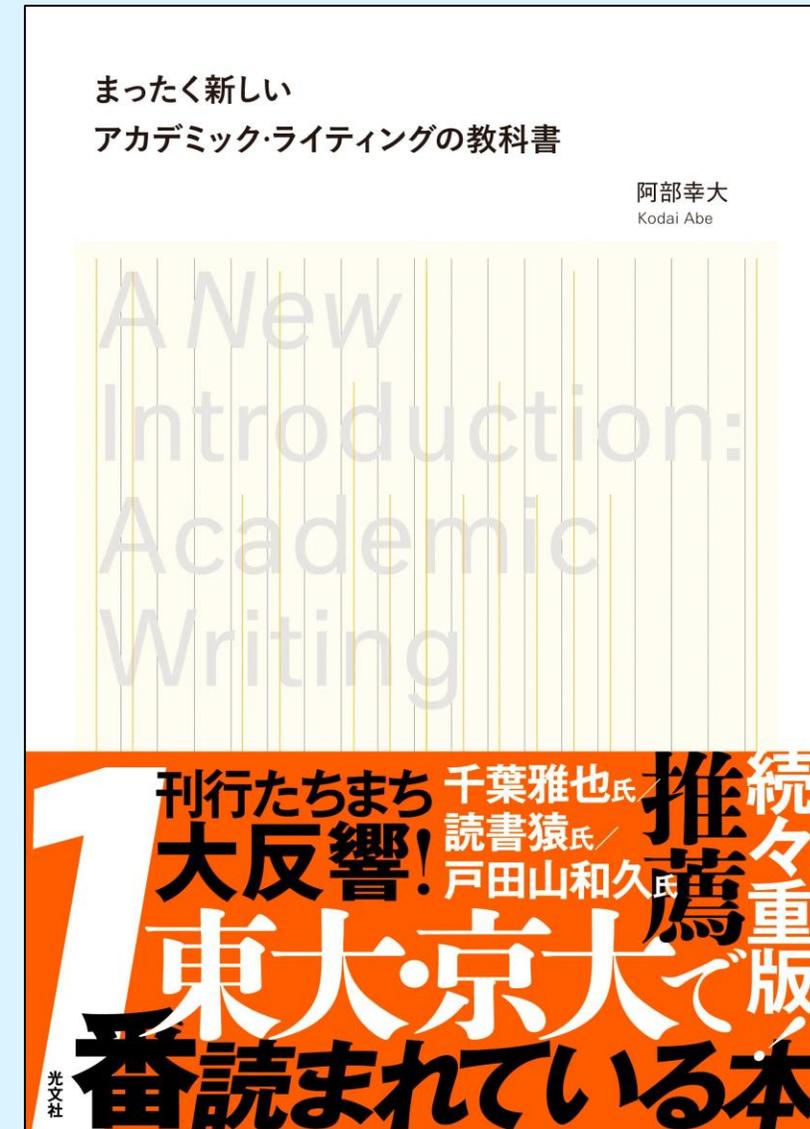
#### ② 「書く」ことに慣れる授業実践

2年「総合的な探究の時間」普通科のみ

- ・「4,000字のレポートを書こう！」

学校オリジナルのプログラム  
(2時間連続×9コマ)

『全く新しいアカデミック・ライティングの教科書』(阿部幸大, 2024, 光文社)をサブテキストとして、レポートとは何か、**アーギュメント**について、引用の方法の復習と実践、言葉の定義と論証の意義、研究倫理と生成AIについてをMeetでレクチャーしながらワーク形式で学び、実際に学術論文や書籍を複数読んで、自分の「究めたいこと」を最終的に4,000字のレポートに仕上げる。



## レポート作成の道① 「究めたいこと」を探そう

2年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

1. 次に示す各分野の中で、自分が「究めたい」と考えるものに近いものを選びましょう。

複数選択しても構いませんし、分野が異なっていても構いません。

- |      |           |          |            |
|------|-----------|----------|------------|
| 人文学  | →①文学・芸術学  | ②語学・国際学  | ③教育学       |
| 社会科学 | →④社会学・歴史学 | ⑤経済学・経営学 | ⑥法学        |
| 自然科学 | →⑦理学・農学   | ⑧工学・産業学  | ⑨医学・薬学・看護学 |

2. 別紙「各分野のテーマの例」を参考にして、自分が「究めたい」と考えるものを、例と同じように書けるだけ書き出してみましょう。(学問分野は上記以外に準じるもので言い換えても構いません)

| 番号 | 学問分野 | 「AにおけるBについて」という形でテーマを書き出してみましょう |
|----|------|---------------------------------|
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |
|    |      |                                 |

3. 上記で書き出した「究めたい」テーマにアプローチするために、どのような文献・資料が必要になってくるか、ジャパンナレッジスクールや図書館検索、Google スカラーを用いて探してみましょう。(とにかく必要そうな情報は片っ端からメモを取っておくことが重要です。書誌情報があれば、必要になったときにそれらの情報にすぐたどり着けます)

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

### 【テーマ探しのポイント】

□(1)探究のテーマが次の条件(特に①②)を満たしているか？(当事者意識を持つために大切なこと)

- ①私(たち)に関心があって取り組みたいこと (I will…、あるいは We will…)
- ②私(たち)にできること (I can…、あるいは We can…) ← 期間内に仕上がるかどうか  
+ 実験・調査可能かどうか  
(特に理系的探究は注意)
- ③今の時代や社会が求めていること (We need…) ← 社会貢献を考える際に必要な視点

□(2)パッと調べて答えが出るような問いは× 別紙の(例)のようなテーマにするとそうなりにくい  
※必ずしも「AにおけるBについて」の形になっていなくても、google 検索くらいでは簡単に答えの出なさそうなところにアンテナを立てるのがコツです

□(3)今は大きなテーマになっていても、最終的には「ほどほどに具体的な」問いになりそうか？  
たとえば「コロナ禍におけるマスクの使用がコミュニケーションに与えた影響について」というテーマから、次のように思考のマスを進めていくことを考えられたらOK

- i 自分の身の回りで起こった現象について、情報を収集する(精緻な観察)
- ii google スカラー等で関連する文献を探し、読んでまとめる(情報の収集)
- iii 必要であれば範囲を限定し、項目を決めて調査し、分析する(データ収集)
- iv それらの情報をまとめ、自分の言葉で結論を出す(あるいは見通しを立てる)

□(4)テーマから問いに変換する方法は「ブレ探究」の際に教わりました。覚えていますか？

- 1 言葉の意味や定義に関する問い
  - ・遅刻とはどのように定義されるのか？
  - ・日本において遅刻にはどのような意味があるのか？
- 2 物事の原因や理由に関する問い
  - ・ひとはなぜ遅刻するのか？
  - ・日本ではどうして遅刻がここまで厳しく指導されるのか？
- 3 物事の信ぴょう性に関する問い
  - ・本当に日本の学校の遅刻指導は厳しいといえるのか？
  - ・遅刻は本当に悪いことなのか？
- 4 何かと何かの比較に関する問い
  - ・日本と海外で遅刻の捉え方はどう違うのか？
  - ・50年前の日本と現在の日本を比べると遅刻に関する指導はどう変わったのか？
- 5 実事例や先行研究に関する問い
  - ・遅刻に対して歴史的にどのような取組があったのか？
  - ・日本での遅刻の研究はどのように進んでいるのか？
- 6 物事に対する影響に関する問い
  - ・遅刻は日本経済にどれほどの影響を与えているのか？
  - ・遅刻が学力に与える影響はどれほどのものなのか？

## ・紙ベースで実施

## ・AにおけるBについて Cではないか の形を意識させる

## ・ジャパンナレッジ School等を参照して必要な文献を探す

## ・学校独自のGoogle サイトを構築して、そこに調べる用のサイトリンクを貼る

別紙 分野別「探究のテーマ」例 ※このテーマをそのまま使用してもまったく構いません。

- ①文学：「【作品名】における【究めたいこと】について」  
例)『源氏物語』における「あはれ」が用いられる場面の意味について  
例)「kanaria 氏の楽曲の歌詞分析における楽曲同士の関連性について」
- ②語学：「【日本語・英語・諸外国語】における【究めたいこと】について」  
例)「日本語における「ら抜き言葉」の拡がりについて」  
例)「英語における書き言葉と話し言葉の違いについて」
- ③教育学：「【校種・教科・対象者】における【究めたいこと】について」  
例)「小学校教育における「英語教育」の必要性について」  
例)「歴史科目における「暗記主義」の抱える問題点について」
- ④社会学：「【調査対象】における【究めたいこと】について」  
例)「東高等学校2年生における「読書意欲」と「成績」の相関性について」  
例)「電車利用者における「遅延」がもたらす心理状況について」
- ⑤経済・経営学：「【国・自治体・対象集団】における【究めたいこと】について」  
例)「日本における円安と人口減少がもたらす将来予想について」  
例)「アイドルグループ「BTS」におけるマーケティング戦略について」
- ⑥法学：「【具体的法令・判例・対象者】における【究めたいこと】について」  
例)「軽犯罪法における実際の検挙例と運用の乖離について」  
例)「平成10年「カレー毒物混入事件」におけるえん罪の可能性について」
- ⑦理学：「【分野・具体的現象・定理・予想】における【究めたいこと】について」  
例)「音声における効果的な情報伝達の条件について」  
例)「数学における魔方陣がいくつあるかの予想について」
- ⑧工学・産業：「【分野・具体的物質・業種】における【究めたいこと】について」  
例)「三大都市圏におけるヒートアイランド対策となりうる建築構造について」  
例)「玩具業界における少子化を見据えた生存戦略について」
- ⑨医学・薬学：「【具体的分野・疾病・医学的現象】における【究めたいこと】について」  
例)「コロナ禍におけるマスクの使用がコミュニケーションに与えた影響について」  
例)「日本の家庭におけるターミナルケア（終末期医療・看護）の在り方について」

このような形になっていなくてももちろんOKですが、いったんは「型」を意識してみることも大切です。

2025 2年総合探究

## リンク集

探究のための役立ちサイト等を紹介しています

🏠 ホーム 📁 レポートアーカイブ

★よく使うサイト★

- Classi
- ジャパンナレッジSchool
- 府立高等学校図書館 図書館蔵書検索(東高校)
- Googleスカラー
- テキストマイニング (byユーザーローカル) まとまった文章の要素や構成を分析するときはこのサイトを使う

★Canva for Education (プレゼン等、さまざまなデザインを作れるツール osakamanabiのアカウントで利用可能です)

★Workflowy (アウトライナー：自己の思考や行動を可視化するツール 今後の授業で使い方を説明します)

★ 生成AI

0. プログラミングツール

1. 公共図書館

2. 学術論文検索・書誌情報検索

3. 統計・資料等

・ **テーマの具体例**を  
生徒に提示しておく

・ **リンク集**はいつでも  
アクセスできるよう  
一か所にまとめる  
(ブックマーク登録は  
このサイトのみ)

・ **B**についてのところで  
つまづく生徒が多い  
ので、**教員が適宜**  
**カウンセリング**する

・ **図書館は常時開放**

## レポート作成への道① レポートとはそもそも何か？

2年 組 番 名前 回答例入り

テキスト『全く新しいアカデミック・ライティングの教科書』（阿部幸大、光文社、2024）

アーギュメント＝「論証を必要とし、かつ、反論可能なテーゼ（命題）のこと」

### ワーク①

「作文」と「レポート」と「論文」の違いはどこにあるか、スライドの文章をヒントに考えてみましょう。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |

### ワーク②

次の各文章はアーギュメントに該当するか、それぞれ判断しましょう。

- 【 × 】 1. 本論では、ナポレオンの業績について改めてまとめ、整理する。**事実の整理**
- 【 × 】 2. このレポートでは、YOASOBI の楽曲に表象される「死」のモチーフについて、楽曲『夜に駆ける』の歌詞を分析することで考察する。**方法の宣言**
- 【 ○ 】 3. 本レポートは、男性 Vtuber「葛葉」の女性アバターである「サーニャ」もまた「葛葉」というひとつのコンテンツを支える大きな柱となっていることを示す。
- 【 × 】 4. 本稿は、三平方の定理がさまざまな方法で証明可能なことを、これまでに発表されていない新しい証明方法を用いて示す。**方法の宣言**
- 【 ○ 】 5. このレポートでは、現代日本における「言葉の乱れ」が国語学的な文法の変化によって生じる、どの時代でも起こりうる普遍的な現象であることを示す。
- 【 × 】 6. 本論文は、コロイド溶液によって生じるチンダル現象が、どのようなコロイド溶液を用いた際に最も大きく光を散乱させるのかを実験で確認する。**方法の宣言**

### ワーク③

「アンパンマンの女性性」というトピックでアーギュメントをつくりましょう。

|                           |
|---------------------------|
| 例) アンパンマンは女性的なキャラクターである。  |
| 例) アンパンマンは女性性とは無縁である。     |
| 例) アンパンマンのケア精神は女性的なものである。 |

### ワーク④

次の各文章を、「AがBをVする」という他動詞モデルで書き換えましょう。

1. 日本語においては、文章の中で受動態が頻繁に用いられている。  
例) 日本語は、文章の中で受動態を頻繁に用いている。  
日本語では、使用者が能動態をあまり用いていない。(打消はアーギュメントとしては弱い)
2. 近年の政治では、国民が議論の外に追いやられていると思う。  
例) 近年の政治では、政治家が国民を議論の外に追いやっているといえる。  
近年の政治では、政治家たちが国民を政治の議論から排除している。
3. 現代は、さまざまなカルチャーが大量かつ短時間で消費されている。  
例) 現代の日本人は、さまざまなカルチャーを大量かつ短時間で消費している。  
さまざまなカルチャーが多くの人々の時間を一気に奪っているのが現代の状況だ。
4. 学校は多くの「サービス」を提供させられている場となっている。  
例) 提供する「サービス」の多さが近年の学校を特徴させている。  
学校が提供する「サービス」が増えてきたこと自体が、学校そのものを顕体化させている。

### ワーク⑤

いま、あなたが「究めたい」と思っているトピックで、アーギュメントをつくりましょう。

- |  |
|--|
| 例) 『源氏物語』では、光源氏が両性具有的な性質を持つ人物として描かれている。(受動態) |
| → 『源氏物語』は、光源氏を両性具有的な性質を持つ人物として描いている。(他動詞モデル) |
| → 紫式部は、場面によって光源氏の性差を巧みに使い分けて物語を構築している。       |

### MEMO

裏に続きます

・ サブテキストの難度が高い→**教員の負担**

・ 指導等への不安感を受け止め、可能な限りプリントを丁寧に作成するも、それでも**難しい**という声が**教員から出た**→**反省点**

・ 企画、作成、運営の側でも、この部分は**非常に負担が大きい**ものが**あった**  
(関係スライドは末尾URL)

# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## ③ 引用の方法についての事前指導

2025/05/01  
2年普通科「総合的な探究の時間」  
レポート作成への道③「レポートにおける主張・引用の関係」  
2年 組 番 名前【 \_\_\_\_\_ 】

**ワーク①**  
前回の「レポートへの道①」プリントで書いた「AにおけるBについて」のBに関するあなたの「主張の芽（このようなことが言えるのではないかな）」を書いてみよう。  
(書き方: 「AにおけるBについて、Cではないか」というようにしてみよう)

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

**ワーク②** →Google classroomに配信されている「課題」のドキュメントに直接打ち込もう。

**ワーク③**  
次の文章は「アーギュメント」の定義に当てはまったものになっているか、答えてみよう。

- ① 東高校の普通科探究の授業で取り組んでいる「レポートを書く」ワークは、生徒に自己の成果物をもってグループ探究に挑んでほしい願いを込めて授業設計されている。
- ② 東高校の普通科探究の授業で取り組んでいる「レポートを書く」ワークは、その難しさのために生徒の能力をかえって低下させているのではないだろうか。
- ③ 東高校の普通科探究の授業で取り組んでいる「レポートを書く」ワークは、難しいことに挑戦させることで主体的に学びに取り組む態度を育成することに主眼がある。
- ④ 東高校の普通科探究の授業で取り組んでいる「レポートを書く」ワークは、論理コミュニケーションで学んだことを基盤として、生徒の書く能力の育成に寄与している。
- ⑤ モナ・リザの絵では、彼女が微笑を浮かべていると世間一般では評価されているが、じつはあの表情は怒りをこらえたものであると考えることもできる。
- ⑥ 観測可能な宇宙の範囲は約930億光年であるというのが最新の学説であるが、観測できない範囲まで宇宙の広さを想定した場合、その広さはおそらく有限である。
- ⑦ 古典文学における「読み人しらず」の和歌の中には、明確な作者がいたものもあり、それをわざと「読み人しらず」として物語化した逸話が現代に残されている。
- ⑧ 男性らしさ・女性らしさという概念は、その社会や文化・歴史が作り出したものであり、人間の「性」はグラデーション状に拡がり、二元論では解消できない。

2025/05/01  
2年普通科「総合的な探究の時間」  
レポート作成への道③ レポートにおける主張と引用との関係 ワーク（データ版）  
2年 組 番 名前【 \_\_\_\_\_ 】

**ワーク①** →プリントに答えを書こう

**ワーク②** 次の文章の \_\_\_\_\_ 線を書き換えて、「全く新しいアカデミック・ライティングの教科書」の記述について「批判」してみましょう。

『全く新しいアカデミック・ライティングの教科書』（阿部、2024）において、著者はアンパンマンの男性性についての「アーギュメント」の作成をひとつの例として用いている。しかし、\_\_\_\_\_ 線は記号論文（アンパンマンの描像:愛と勇気とホモソーシャル）の中で、次のように述べている。

- ・ やなせは、「勇らしく」「女らしく」という考え方が好きではない、と述べている。（熊田、2014）

つまり、阿部（2024）のテキストに取り上げられている例は、\_\_\_\_\_ 。

[引用文献・参考文献]  
・ 『全く新しいアカデミック・ライティングの教科書』（阿部幸大、光文社、2024）  
・ 『 \_\_\_\_\_ 』（ \_\_\_\_\_、愛知学院大学人間文化研究所紀要、29号、pp.204-273、2014）

**ワーク③** →プリントに答えを書こう

**ワーク④** →プリントに答えを書こう

**ワーク⑤** →プリントに答えを書こう

**★ワーク⑥の追加練習** 時間が余ったら挑戦してみよう

**ワーク⑥の問題⑥**について、次のような文章があります。 \_\_\_\_\_ 線を書き換えて、文章の意図が通るようにしてあなたのアーギュメントで締めくくってみてください。

男性らしさ・女性らしさという概念は、その社会や文化・歴史が作り出したものであり、人間の「性」はグラデーション状に拡がり、二元論では解消できない。しかし、一方で \_\_\_\_\_ という反論があることも事実である。

ここでそのような反論に再反論するには、「性」という語をもう少し限定的に定義する必要があるだろう。ここでは、ジャパンナレッジ(School)に収録されている『男女平等はどこまで進んだか 女性差別撤廃条約から考える』（山下静子 et al, 2018）の次の一部を引いてみたい。

「子どもは母親が生に産卵をみるべき」、「女だから家事は完璧にできなきゃ」といった、「女の役割」や「男の役割」、「女だから」「男だから」当たり前とされる行動様式や考え方、規範などによる女性、男性、その他多様な性の区別が「ジェンダー (gender)」で、「社会的・文化的に形成された性別」とも言われます。（山下静子 et al, 2018）

つまり、ここで論じたい「性」とは、一言で言い換えると \_\_\_\_\_ のことであり、この観点に立ったとき、性別の後ろに付く「らしさ」という語はそのものが \_\_\_\_\_ 的に生じたものとなり、それはやはりグラデーションを伴って広がるものであることがわかるだろう。よって、本レポートでは \_\_\_\_\_ を示す。

[引用文献・参考文献]  
・ 『男女平等はどこまで進んだか 女性差別撤廃条約から考える』（山下静子・矢野電子監修/国際女性の地位協会・編、岩波ジュニア新書、2018）

- ・ 実際に自分のテーマを言語化する
- ・ Googleドキュメントで穴埋めの形式にして引用の仕方を学ぶ
- ・ サブテキストを批判することで他者の著作への指摘の方法を具体的に体感してみる

## 2. ○○○○ (見出しの題をつける)

他の文献を引用する方法には、「直接引用」と「間接引用」の2種類がある(論理コミュニケーションで習っている。まだはっきりと覚えているだろうか)。「直接引用」は、文献の言葉を一字一句そのままレポートに引用する方法で、次のように本文から前後1行あけて、行頭(インデントといいます)を3字下げて、必ず「バタ打ち(コピー&ペーストを使わず、自分で打つ)」にする。なお、**インデントは、ドキュメントの上部に青い棒と三角のマークがあるので、それを両方動かして「1.25」と調整する**とよい。改行で調整すると、脱字があったときの修正等が大変なことになるので、必ずインデントで調整しよう。(上の青い三角印を見ながら、次の直接引用の部分を選択してみよう。青い三角が移動するのがわかる。なお、改行してもインデントは残るので、もとに戻すときは逆に「0.00」に設定すればよい)

〈あはれ〉の自己希求が、自己の劣位性を追認する機能を有することも、一面においては正しいと言えよう。しかし、その決定的な劣位性は彼の死を前提にしなければ成立しないのである。彼がここで死ななければ、物語の展開上先に死ぬのは光源氏になっていたはずであり(年齢的にもそうであろう)、そうになってしまえば、柏木のほうが光源氏よりも優位に立つことだって物語としてはありえたのである。ただ、物語はそのようには筆を運ぶことがなかった。柏木はここで死

1

レポートのタイトル(ハッター ダブルクリックしたら編集可能)

に、そのことによって、彼の劣位性を必然的であるかのように装ってゆく。だが、女三宮が看破するように、彼の劣位性はじつは非常に主観的なものなのである。よって、ここで〈あはれ〉を自己希求することは、劣位性の追認というよりは、むしろみずからの身をあくまで主観的に劣位へと規定する力学に支えられているのだと言うべきなのかもしれない。(石山, 2008, p.25)

ここでは石山が大学院生時代に書いた論文の一部を少し長めに引用したが(文字数は376、字数のカウンタは「ツール」の「文字カウント」でできる。長くても絶対にバタ打ちする。しんどくても、絶対にバタ打ちする)、このように、**引用した箇所は文字の色を赤色に変更しよう【超重要】**。赤色にする方法は、文字を選択した状態で、「A」のアイコンを選択し、赤色を選べばよい。なお、ルールとして覚えておいてほしいのは、①引用は**最低限必要な部分だけを載せる**、②もとの文献に誤字があったとしても、必ずそのまま引用する(その場合は、その誤字の後ろに<ママ>と表記すればよい)、③レポート内の自分の文章と引用の文章の割合は、**必ず自分の文章のほうが引用した文章の半分以上になっていなければならない**(つまり、4,000字のレポートであるならば、引用は2,000字を超えてはならない。2,000字でも多すぎるくらいなので、4,000字のレポートならばだいたい引用は多くても1,500字程度まで【比率は、自分の文章5~6:引用した文章3】である)。

また、引用した文章の中に、その文献の著者が別の文章から引用した部分が含まれる場合は、その部分を引用することは「孫引き」になってしまうため、その部分は引用してはならない。どうしても引用する場合は、その孫引きに当たる文献も必ず自分で読み、その文献も同時に引用する必要がある。人が書いた文章は、「事例」ではあるが、決して自分の意見にはならないので、意見と事例を切り分けることを忘れないようにしましょう。

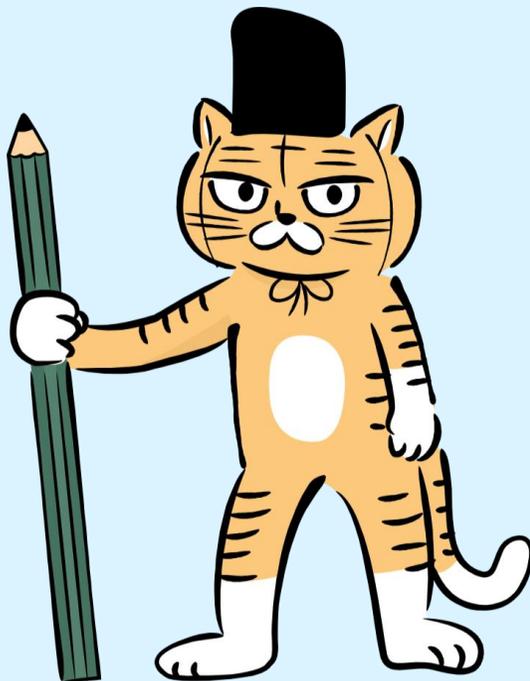
## 3. ○○○○ (見出しの題をつける)

間接引用は、直接引用のように文献のまとまった部分をまとめて抜き出すのではなく、①読んだ文献を自分で要約して引用するとき、②文献の中の短い文章を少しだけ引用するとき、の2つの場合で利用する方法である。

①の例を次に述べる。石山(2008)では、**自分に対する〈あはれ〉という言葉**を別の人物に要求する場合、その要求した人物は自分が劣位に置かれていることを追認するためにそのようなことをするのはなく、むしろ自分のことをあえて劣位であるかのように物語の中で規定させる力が働いている、とする。このように、レポート本文の中に、「○○(xxxx)では、〜〜、とする」のように、著者とその文献の書かれた年をあらかじめ書いたうえで、自分の言葉で要約して書くこともレポートや論文では許される(というか、こちらのほうがむしろ実際のレポートでは多くなるはずである)。このテクニックは今うちを知っておくと、大学に入ってから非常に学問が楽になるので、今うちに実践してみよう。

②の例は非常に簡単である。石山(2008)が「**むしろみずからの身をあくまで主観的に劣位へと規定する力学**」が〈あはれ〉という言葉には込められていると述べるように、……。と、本当に文章の一部をそのままカッコに入れて引用すればいいだけである。この際も、著者と文献の書かれた年がわかるように、近くに明記することが重要である。どのパターンでも、**東高校の探究レポートでは、引用箇所の字を赤色にすることをルールとする**ので、絶対に忘れないように引用箇所の字の色を変えよう。

間接引用を使いこなせるようになると、レポートの質は一気に高まるが、ひとつだけ注意しておきたいのは、**間接引用の場合、自分の要約が必要になるので、その文献を誤読しているときに、誤った引用になる恐れがある点である**。ただ、これを恐れて直接引用ばかりしていると、レポートは幼稚な印象を相手に与えることにつながってしまう(人の言葉を借りまくって自分の言葉がないというのは、あなたのレポートではない、つぎはぎで作ったかかしのようなものだ)。恐れず、勇気を出して、間接引用に挑戦してみよう。



・ 引用に関する東高校のルールを提示する

・ 直接引用と間接引用の例を実際に示す

・ Googleドキュメントの技術的な方法も一緒に説明する

・ どれくらいの引用が認められるか、また引用で孫引きをしてはいけないことを明示しておく

### 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

#### ④ 何をどう書くかの順序立て指導

- ・ **実際のレポートの形**をGoogleドキュメントで生徒に提示する（読み物にもなる）
- ・ 高校生のレポートであっても、**形式は大学でのレポートを基準として作成する**
- ・ **雛形だけではなく、説明的な文章にしたもの**も生徒に配信する

レポートのタイトル (ヘッダー ダブルクリックしたら編集可能)

令和7年度 (2025年度) 2年普通科「総合的な探究の時間」レポート

○○○○○○○○ (レポートの題を入力)

—○○○○— (副題があれば入力、なければ削除)

大阪府立東高等学校 普通科 2年 ○組 ○番

名前: ○○ ○○

キーワード: ○○、○○、○○、○○ (レポート内の重要なキーワードを2~6個ほど書いておく)

1. はじめに (見出しをつけてレポートを区分けし、読みやすくする 見出しの題は自分で決める)  
見出しに下線を引き (文字を選択した状態で、「U」のアイコンを選択するか、キーボードの左下の「ctrl」キーを押しながら「U」キーを押すと、下線が引ける)、本文を次の行のここから書いていく。段落を変えたら必ず書き出しを1字「全角の」空白にして空けることを忘れずにしよう。  
1段落には1トピック (1つの話題) を書くようにする。だいたい4,000字のレポートの段落数の目安は10~25 (各段落の字数が400字~160字程度になる) となるように、トピックの数から逆算してレポートを組み立てる。  
見出しの数は、4,000字のレポートならだいたい5~8個 (「はじめに」「おわりに」などを合わせてだいたい7個くらいになることが多い) くらいになる。ただし、これらはすべて「目安」なので、もちろん例外が生じて構わない。

- この資料は探究推進部所属の**数学の教諭が作成しました(教員の技術共有はこの水準で行う)**
- 国語の授業でも指導する「**序論・本論・結論**」の3部構成を基準に、生徒に指導していく
- 自分の意見や根拠と、引用文献の主張を**混ぜない**ように意識させていくことが非常に大切
- どうしても書けない生徒や、テーマ探しに難航している生徒は、**個別に呼び出してそのつどカウンセリングする (この教員不足が課題)**
- ITで指導しつつ、図書館も常時開放して、生徒の自主性を尊重する (**図書館で何もせず雑談する生徒のグループも必ず出るが、叱らず対話する**)

## レポートの書き方

### 1. 序論

ここでは、なぜこのテーマにしたのかを書きつつ、自分の主張を書きましょう。

- ・私は昔から〇〇が好きで～
  - ・普段、何気なく使っている(目にしている)〇〇について～
- など、**エピソード**をしっかりとめを書くことで、読み手の興味を引きつけましょう。そして、最後に「私はこのレポートで、AにおけるBについてCであることを示す。」とできれば合格です。

### 2. 本論

ここからは、「Cである」ことの証拠を提示していくわけですが、いきなり証拠を提示するのではなく、まずは**AやBについて、それがどういうもの・事なのか説明**をしていきましょう。2ではAについて、次の3ではBについてといった感じでOKです。字数については、以前石山先生から配信された「レポートの雛形」を参考にしましょう。

説明が一通りできたら、いよいよ証拠の提示です。様々な文献・資料から引用し、自分の主張の土台作りをしていきます。

- ・この文献では～～とある。これは〇〇ということだ。
- ・この資料から△△だということが分かる。

といった感じで、ただ情報を示すのではなく、自分の主張につながるような(都合のよい)**要約・言い換え**を試みましょう。この言い換えは万人がすっきりと納得するような形でなくて大丈夫です。「こういうふうにも言えるよね」くらいの気持ちでやってみましょう。ただし、情報があまりにも少ない(特に1つの文献だけで)状態では説得力が足りないですね。複数の情報源を提示することで「確かにそうかもしれない」と感じてもらえます。情報収集は大変ですが、...

### 3. 結論

ここまでくればあと一息です。最後はどうまとめようかとあまり悩むことはありません。結論は**序論で書いた自分の主張をもう一度書いていきます**。本論での証拠を簡単に説明し、「よってAにおけるBについてCである」と締めくくります。なので、序論が書けたら結論もある程度書いておいてもいいです。

あくまで、一つの書き方の例だと思ってください。特に本論では、言いたいことがたくさんある場合、2のところでもAやBの説明を簡潔にまとめてしまってもいいです。また、いきなり格好良い言い回しをしようとしなくてもいいです。まずは、一通りの流れを作ってみて、後で修正していきましょう。

ご存じの通り、このレポートで2学期以降のグループが基本的に決まります。しっかりやらないとグループワークで本当に後悔してしまいます。先生に助けを求めやすい今のうちに頑張って取り組みましょうね。

※ 気になる文字数は「Shift+Ctrl+C」で確認できます。

# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## ⑤ 「書く」 テンプレート等の作成

- ・あとは自分で書いていくだけ！
- ・ Google ドキュメントの雛形を Classroom の課題として配信
- ・ **まだ提出できないようにして、適宜生徒の経過を確認しつつグループ分けの準備を行う**



レポートのタイトルを入力 (ヘッダー ダブルクリック・ダブルタップしてここも編集すること)

令和7年度 (2025年度) 2年普通科「総合的な探究の時間」レポート

○○○○○○○○  
-○○○-

大阪府立東高等学校 普通科 2年 ○組 ○○番

名前: ○○ ○○

キーワード: ○○、○○、○○、○○

1. ○○○○  
テキスト

2. ○○○○  
テキスト

3. ○○○○  
テキスト

4. ○○○○  
テキスト

5. ○○○○  
テキスト

【参考文献・引用文献】  
・著者(xxxx)『○○○○ (正式名称で)』(出版社や雑誌の発行者[、『雑誌名』号数、引用ページ])  
・  
・

(xxxx字)

※この黄色の部分も含めて、不要箇所は削除して提出すること

1

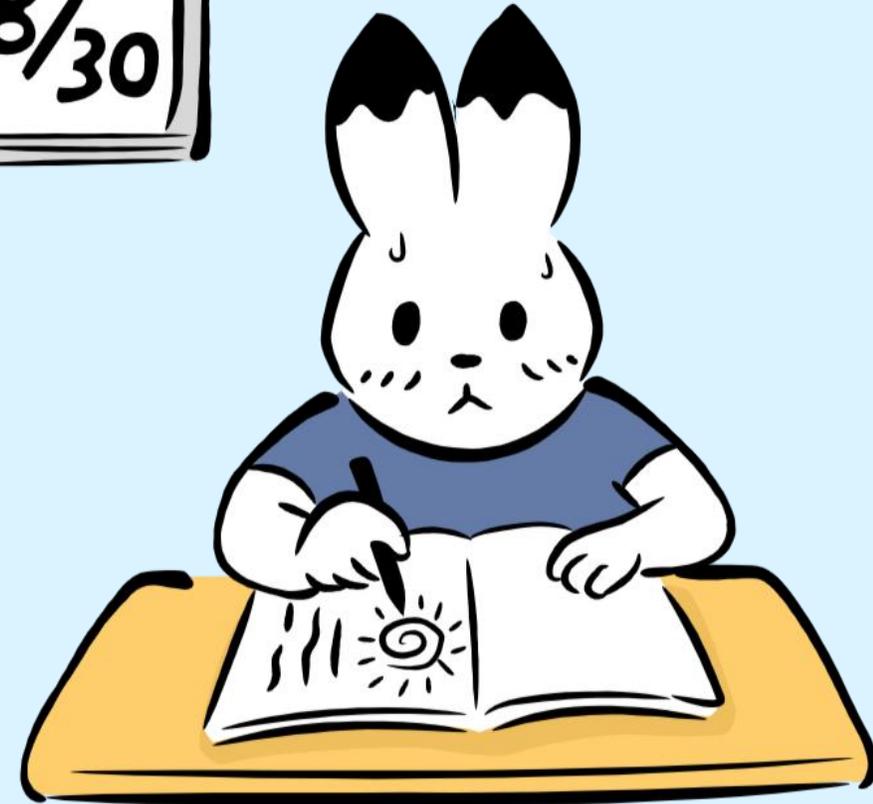
### 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

#### ⑥ 十分に「調べて書く」時間設定

- ・ 雛形配信日：6月19日 締切：9月3日  
(76日間、夏休み前最後の授業からだとして48日)



- ・ 学校図書館も8月1日まで開館して対応  
(夏の休館後の開館日は8月18日)
- ・ 順調3割、少し進む3割、進まず4割の体感  
(8月13日現在の生徒の課題状況を見て)



# 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

## ⑦ 自己チェック用のリストの作成

2年普通科「総合的な探究の時間」レポート課題 セルフチェックリスト

### ① レポートの形式

- ヘッダーを編集してタイトルを入力できている
- タイトルとサブタイトル（あれば）を適切につけられている
- 学年・組・出席番号・名前を適切に入力できている
- キーワードを設定できている
- 余計な余白の行がない
- 見出しと見出しの題を適切に付けられている
- 引用した部分の色を赤色に変えることができている
- 直接引用が長い場合はインデントをつけて行下げができている
- 間接引用も赤色に変えることができている
- レポート末尾に参考文献と引用文献を適切な形式で全て列挙できている
- レポートの総文字数を最後に記している

### ② レポートの内容

- 自分の主張をアークギュメントの形で述べる事ができている
- アークギュメントを支える根拠と事例を具体的に述べる事ができている
- 引用文献の引用の量が適切である
- コピー&ペーストではなく、直打ちで引用文も書いている
- 引用した文献については必ず引用したことが分かるように明記している
- 参考文献も全て明記している
- 他者の文章を自分の文章のようにしていない（※絶対に違反してはいけません）
- 生成AI等で架空の文献を作成したり、生成AIで全ての文章を書いている（※これも絶対に違反してはいけません）
- 総文字数にかかわらず、レポートとして自分の言いたいことが全て書けた

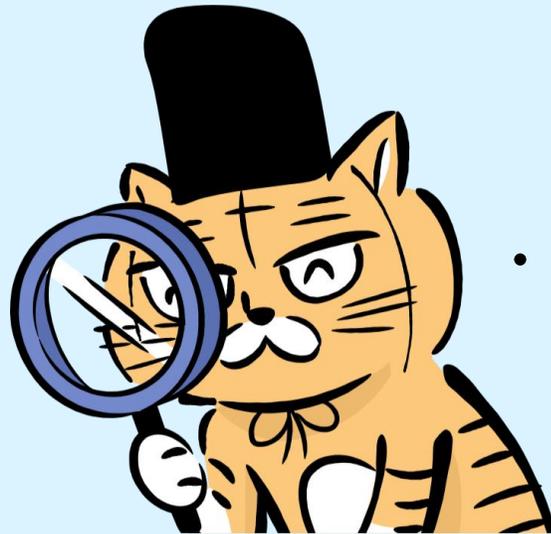
### ③ まとめ

- 今の自分ができるベストを尽くせた
- 他の人にも自分が書いたものを言葉で説明することができる
- 上の全てのチェックマークにチェックが入っている

お疲れ様でした。Classroomの課題が提出できるようになるのは8/28(木)からです。  
9/3(水)が最終締切ですので、それに遅れないようにしてください。

探究推進部

- ・ **できるだけここでしっかりと**  
**チェックできるようにしておく**
- ・ **研究倫理に違反していないかも**  
**必ずチェックしてもらう**
- ・ **自分がベストを尽くしたことを**  
**自覚させておく（意欲を称える）**



### 3. 大阪府立東高等学校におけるレポート・ライティングの実践

#### ⑧ 評価のための簡素ルーブリック

- ・できるだけ誰でも機械的に評価できるように
  1. 引用が適切になされているか
  2. 意見・根拠・事例（引用）があるか
  3. 分量が4,000字の7割に達しているか
- ・ルーブリックはおすすめしません
  - 評価項目が細分化されるので負担大
  - YesかNoかでばっさり二分してしまう



# 提案内容



1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

## 4. 生成AIという「武器」の登場と心理的安全性との関係



教員側の心理的安全性を脅かす存在？

- ・あちこちから聞こえてくる「**架空の文献**」の存在  
→大学ならまだ教員の専門性によりなんとかできるところがあるが、**高校の探究でこれらを見抜いたり防いだりできるのか**、という声は本校でもよく質問されます

## 4. 生成AIという「武器」の登場と心理的安全性との関係

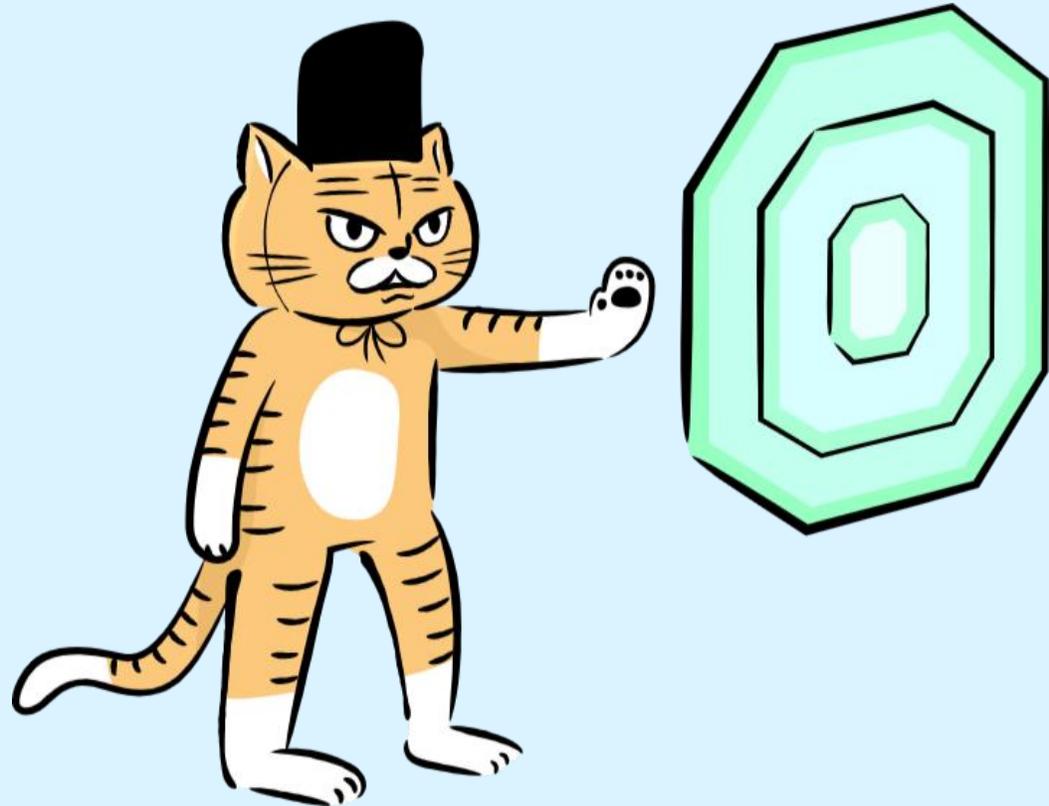
生徒を信じつつも毅然と対応する！

- ・ 生成AIが出力した文章を**そのまま提出してきた場合は、ほぼ確実に見抜けます**（さすがにわかる）
- ・ **架空の文献**については、こればかりは**ひとつずつチェックする**しか今は方法がありません（今後の課題）



## 4. 生成AIという「武器」の登場と心理的安全性との関係

「使いな」という指導は悪手です



- ・ これからの時代を生きる生徒たちに生成AIを使いな、という指導は逆に生徒の将来を狭めることにつながりかねません（**生徒の心理的安全性の毀損**）
- ・ 何が良くて、何がダメなのかを、**皆で考えていく**のが探究の役目です

# 提案内容

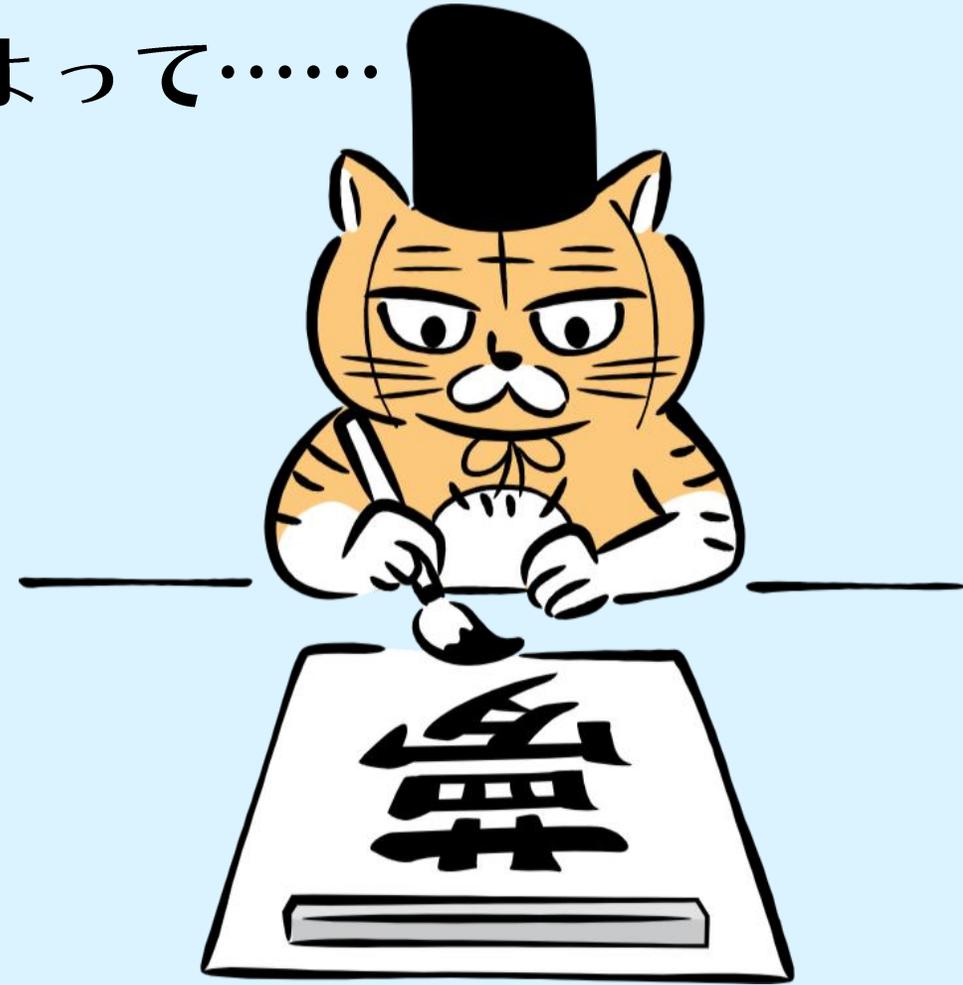


1. 探究学習における  
心理的安全性がどれだけ大切か
2. 教師も生徒も《書くこと》を  
おそれない環境づくりのポイント
3. 大阪府立東高等学校における  
レポート・ライティングの実践
4. 生成AIという「武器」の登場と  
心理的安全性との関係
5. 実践の成果と今後の課題

## 5. 実践の成果と今後の課題

「書くこと」をメインに据えたことによって……

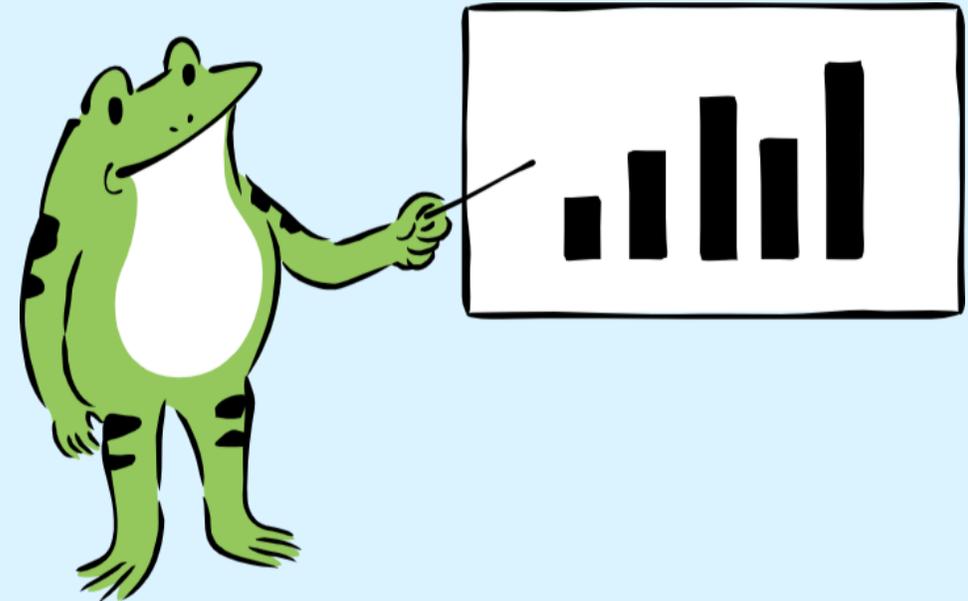
- ・ **実際に生徒の「書く力」の向上が見られた**  
→ 現3年生からレポート・ライティングの実践を始めているが、実際に国語の成績や記述模試の成績と正の相関がみられる
- ・ **「書くこと」への抵抗感が非常に下がっている**  
→ 自分で興味のあることを調べ、それをまとめることなどの苦手意識が低下し、とにかく書くということができるようになっている



## 5. 実践の成果と今後の課題

### 生徒の「心理的安全性」の観点からは……

- ・ **グループ決めを半分生徒に委ねたことの効果大**  
→書いたものからこちらがグループの人員素案を作成し、一度生徒に提示して、申し出があればカウンセリングを通じて班を決定していった
- ・ **評価を気にしない「自分たちの」探究になった**  
→教員があれこれ介入せずとも、自分たちが調べ自分たちでまとめるという、単なる調べ学習にとどまらない自由な探究ができていった



## 5. 実践の成果と今後の課題

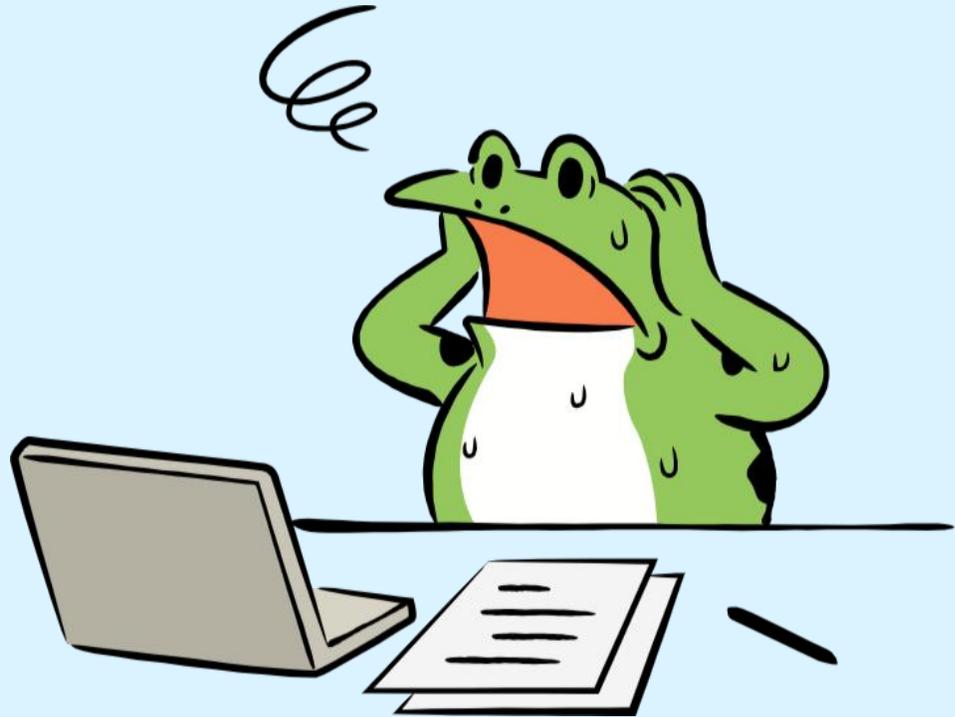
### 教師の「心理的安全性」の観点からは……

- ・ **生徒の書いたものを基準に指導ができるように**  
→ 生徒と対話すること、「ガードレール」の役割に徹することで、教員が100%指導しなければならないという思い込みや負担感が減った
- ・ **評価を非常に単純化したことで業務負担も減少**  
→ 文章評価の観点を4段階（+1段階）に絞り、AAA・ABA・BAA・BBB(・BBA)で文章が自動的に定まるようにして、評価の負担は激減



## 5. 実践の成果と今後の課題

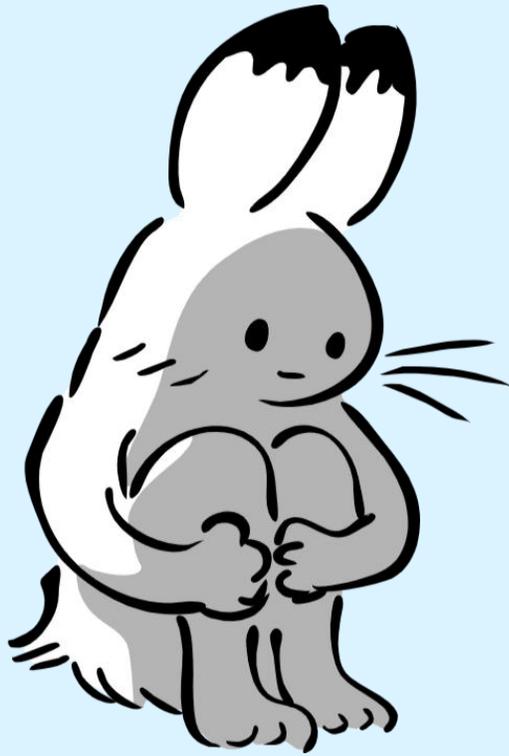
### 課題として見えてきたもの



- ・ **サブテキストのレベルが高すぎた？**  
→ 高校の探究ではかなりレベルの高いことを実際に覚悟して取り組んだので、想定はしていたがまだまだアーギュメントへの認知が少ない
- ・ **教員の打ち合わせのネガティブ・フィードバック**  
→ 心理的安全性の観点から考えると、この打ち合わせの際に毎回出てくるネガティブな発言が、探究推進部員の精神的な負担になっていた

## 5. 実践の成果と今後の課題

### 教員も生徒も、対話とカウンセリングを



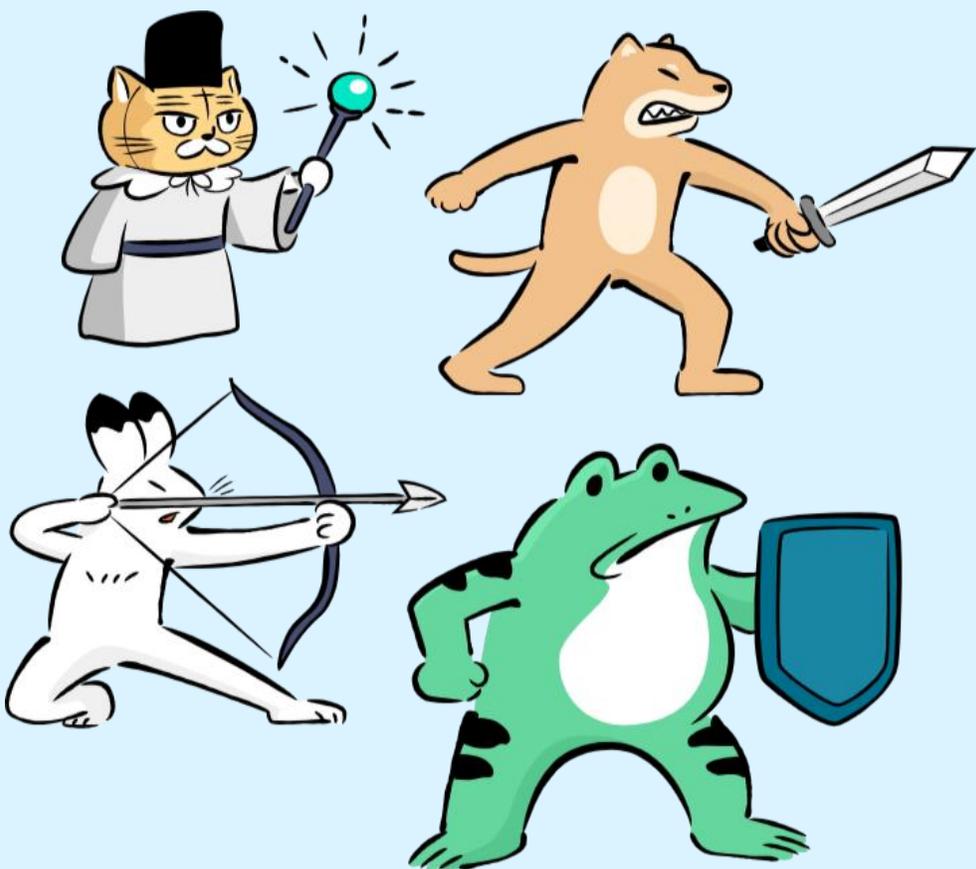
- ・「話し合う」ことの心理的ハードルの高さ  
→特に教員対教員の「話し合う」ことへの心理的障壁の高さが探究を阻害しているため、ここについては意識して改善する必要がある
- ・全体場でネガティブなことを言わないように  
→ネガティブなことを言ってはいけないのではなく、全体の打ち合わせでそういうことを発言しない等のルールを決めておく

# 心理的安全性とは、コミュニケーションの中に存在するもの

そもそも「探究」という「教科」で採用された教員は現場にいない→みんな不安

だからこそ、とにかく全て抱え込まずに全員で取り組むという姿勢が非常に重要

生徒に対しても、押しつけではない、それでも舗装された道は用意しておく



# 参考資料

[本日の提示した資料 \(Googleドライブ\)](#)



『全く新しいアカデミック・ライティングの教科書』（阿部幸大, 光文社, 2024）

『[論理コミュニケーション トータルロジックス特別版](#)』

（一般財団法人SFCフォーラム提供 テキストPDFは文科省ウェブサイトで公開）

Rogers, Carl.(1954) *Towards a Theory of Creativity*. ETC: A Review of General Semantics Vol. 11, No. 4 (SUMMER 1954), pp. 249-260 (12 pages). Institute of General Semantics